

総合計画

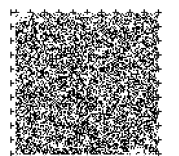
将来ビジョン・
岸和田

第1期 基本計画

2023



2026



CONTENTS

1 基本計画の概要..... 5

1. 総合計画 将来ビジョン・岸和田の全体像6
2. 基本計画(本編)の見方8

2 第1期基本計画の重点目標..... 11

1. 重点目標の考え方 12
 - ◇ 重点目標1 子育てしやすい岸和田の実現 12
 - ◇ 重点目標2 経済・交流が活発な岸和田の実現 14
 - ◇ 重点目標3 都市課題を解決する仕組みづくりの実現 15

3 本 編..... 17

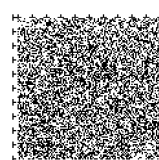
- ◇ 基本目標 岸和田の次世代を育むまち..... 18
- ◇ 基本目標 健康で自分らしく生きられるまち..... 46
- ◇ 基本目標 安全で安心して暮らせるまち 64
- ◇ 基本目標 人と自然が共生した住みよいまち..... 74
- ◇ 基本目標 にぎわいと活力を創造するまち..... 84
- ◇ 基本目標 みんなでつくる持続可能なまち 98

4 まち・ひと・しごと創生総合戦略 109

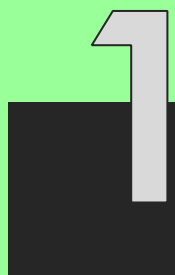
1. まち・ひと・しごと創生総合戦略とは 110
2. 総合戦略の全体像..... 112
3. 総合戦略と総合計画の関連性..... 114

5 資料編..... 119

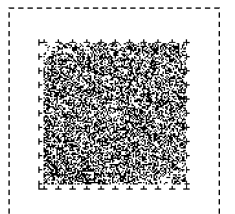
1. みんなでめざそう値の一覧(出典・計算式)..... 120
2. SDGsとの関連性..... 130



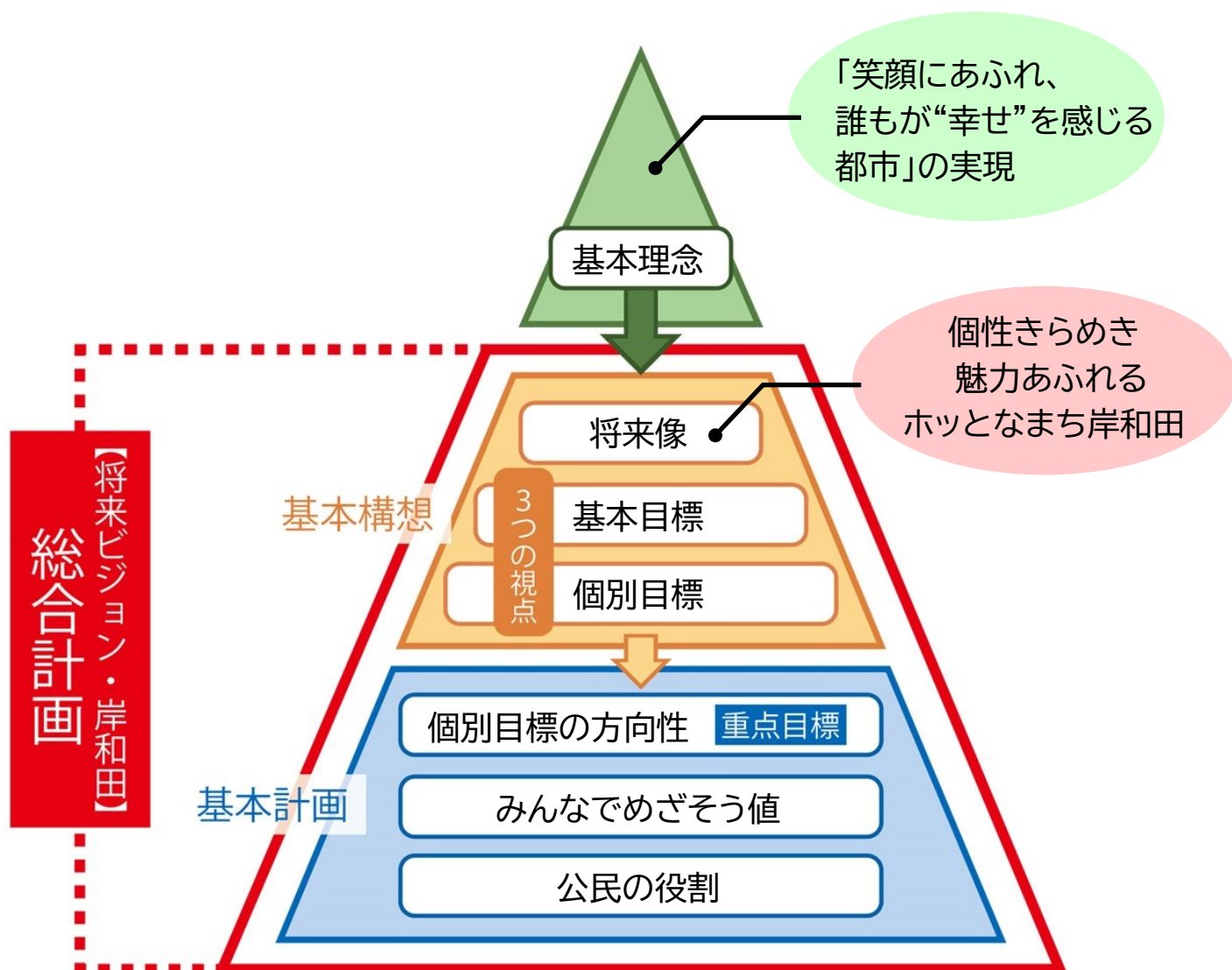




基本計画の概要



1.総合計画 将来ビジョン・岸和田の全体像



総合計画と個別計画の関連について

総合計画の基本計画は、中期的な戦略シナリオです。

教育や福祉、環境、都市基盤などの個別分野について、さらに具体的に定める計画(個別計画)は、基本計画をはじめ総合計画に掲げられた基本目標、個別目標、個別目標の方向性を実現するための計画として位置付けられます。

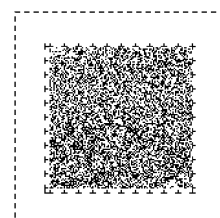
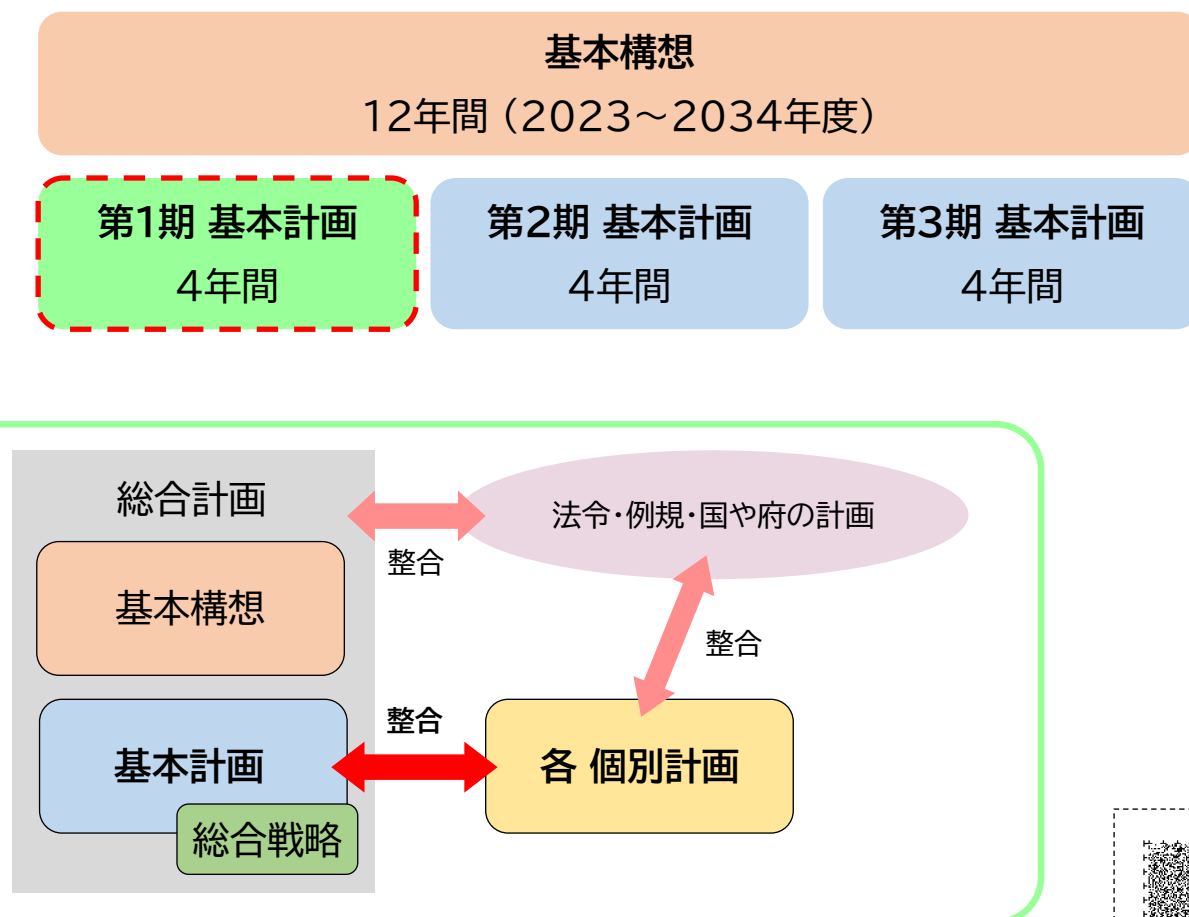
このため、分野別の個別計画を策定する際は、総合計画と整合を図ることを基本としています。

総合計画 未来ビジョン・岸和田(以下、「総合計画」といいます。)は、市の最上位の計画であって、市民・事業者・行政など様々な主体が行うまちづくりの指針となるものです。

総合計画は、左図のとおり基本構想と基本計画で構成しており、基本構想は、長期的な視点からまちづくりの指針(大きな方向性)を明らかにするものです。一方、この基本計画は、基本構想で定める将来像や基本目標、個別目標を実現するための中期的な戦略シナリオと位置付けています。

そして、基本計画では、市民みんなの共通の目標を数値化した「みんなでめざそう値」や、個別目標などを達成するための「想定される公民の役割」を示すとともに、市長の公約と連動しながら、この4年間で何に重点を置くのかといった「選択と集中」を明らかにする役割を担っています。

なお、基本計画で示す方向性を進めるための分野別の個別計画については、基本計画をはじめ総合計画と整合を図ることを基本としています(本ページの下部参照)。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略については、個別計画としての性質をもっていますが、今回から総合計画に一体化させることとしており、その内容は109～117ページに記載しています。



2. 基本計画(本編)の見方

個別目標の方向性

個別目標の達成に向けた施策や事業、活動の方向性を示しています。

みんなでめざそう値

みんなの共通目標として、個別目標を数値化した指標です。

基本目標 岸和田の次世代を育むまち

個別目標 安心して子どもを生み、育てられている

個別目標の方向性

① 妊産婦や乳幼児の切れ目のない健康づくりを進める

現状と課題

近年の晩婚化や未婚率の上昇、女性の就業率の増加などにより、本市においても出生率の減少や高齢出産数の増加がみられる中、乳児死亡率がやや高い傾向にあります。

今後も、妊産婦や乳幼児の健康づくりを支援するため、岸和田市内における産科診療体制の充実をはじめ、妊産婦家庭への個別相談などの充実や健診の促進が求められています。

みんなでめざそう値

指標A 乳児死亡率(人口1,000人当たり)

1.5% ▶ 0%
(2020年) (2024年)

指標B 幼児のう歯(虫歯)保有率

19.5% ▶ 減少
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



現状と課題

社会潮流やニーズの変化、本市の現状などを記載しています。

特に関連するSDGs目標

個別目標の方向性に、特に関連するSDGs目標のアイコンを記載しています。

個別目標の方向性

② 妊娠を望む家庭や子育て家庭の不安解消、経済的負担の軽減を進める

重点目標

現状と課題

核家族化や都市化、さらに新型コロナウイルス感染症等の影響から、家庭の子育て機能や地域社会のつながりは弱まる傾向にあり、子育てに不安を抱きつつも相談することができず孤立する家庭や経済的に不安を抱える家庭の増加、子どもの貧困などの問題がみられます。

地域で気軽に相談できる機会や居場所がつけられるとともに、子育てに関する情報発信や共有できる仕組み、経済的な負担の軽減など、安心して子どもを育てるための環境づくりが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 地域子育て支援センターの利用者数

4,824人 ▶ 8,319人
(2021年) (2025年)

指標B 岸和田は子どもを生み育てやすいと感じている市民の割合

27.8% ▶ 31.0%
(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説 SNS

「Social Networking Service(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」の頭文字をとったもので、インターネット上で社会的ネットワークを構築可能にするサービスのこと

主な関連部局

個別目標ごとに、主に関連する部局(市の組織)を機構順に記載しています。

個別目標のめざす状態を記載しています。

【主な関連部局:保健部、子ども家庭応援部】

妊産婦や乳幼児の健康づくり、妊娠を望む家庭や子育て家庭の精神的・経済的負担の軽減を進めることで、安心して子どもを生み、育てやすい環境をめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 妊婦健診や乳幼児健診など、健診をしっかり受ける
- 乳幼児の健康管理や成長発達の把握に努め、必要に応じて育児相談を受ける
- 地域住民は、子育てのための活動に積極的に取り組む



事業者・団体・地域など

- 事業者は、子育てにやさしい就業環境づくりに取り組む



行政

- 個別訪問など、妊産婦や乳幼児の健康管理を支援する

各主体をつなぐ取組や公民連携の取組例

- 保健師など専門職への相談を仲介する

関連する主な個別計画

- 岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画

想定される公民の役割



個人や家庭

- 子育てに関するイベントなどに積極的に参加するとともに、SNS*を活用して情報を発信する



事業者・団体・地域など

- SNSを活用して、子育てに関するイベントなどの情報を発信する
- 親子で楽しめる場を提供する
- 子育てに関する取組へ協賛する



行政

- 子育て家庭が安心して相談できる場や機会の提供、子育て情報の発信を行う
- 妊娠を望む家庭や子育て家庭の経済的な支援を行う
- 子育て家庭が安心して過ごせる場を提供する
- 子育てに関する講座が受講できる機会を提供する
- 母子の保護と自立のための支援を行う

各主体をつなぐ取組や公民連携の取組例

- 関係機関や団体と子育て家庭、子育て家庭同士をつなぐ

関連する主な個別計画

- 第2期岸和田市子ども・子育て支援事業計画

想定される公民の役割

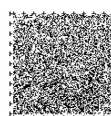
個別目標の方向性を達成するために必要と想定されるそれぞれの役割を明らかにしています。

各主体をつなぐ取組や公民連携の取組例

想定される各主体をつなぐ取組や公民連携の取組例を示しています。

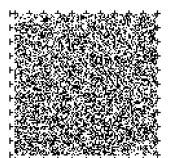
関連する主な個別計画

基本計画を支える、関連する主な個別計画を記載しています。



Uni-Voice 21

専用アプリが入ったスマートフォンや携帯電話、専用読み取り装置で、音声コード「Uni-Voice」を読み取ることにより、音声で情報を取得することができます。

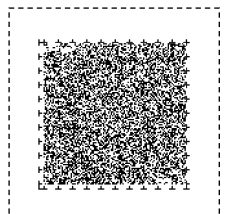


Uni-Voice



2

第1期基本計画の 重点目標



1. 重点目標の考え方

基本計画は、「笑顔にあふれ、誰もが“幸せ”を感じる都市」の実現という基本理念の下、将来像や基本目標、個別目標を実現するための中期的な戦略シナリオとして位置付けられています。

また、基本計画は、市長の公約と連動しながら、この4年間で何に重点を置くのかといった「選択と集中」を明らかにする役割を担っています。

そして、この「選択と集中」を具体化したものが、以下に掲げる重点目標であり、これらに関連する施策を効率的・効果的に展開していくことが必要です。

重点目標 1 子育てしやすい岸和田の実現

関連する個別目標の方向性 妊娠を望む家庭や子育て家庭の不安解消、経済的負担の軽減を進める / 保育を必要とする人が、安心して子どもを預けられる環境づくりを進める / 食育や体力づくりなど子どもの健康な身体づくりを進める / 適正な就学・就園や経済的な支援により教育機会を確保する / 子ども一人ひとりが輝くための適切な教育支援を行う / 岸和田の魅力を活用し、まちのイメージの向上を進める

子どもの保育・教育環境の向上

子育て家庭が働きやすい環境をつくり、少子化の改善につなげるとともに、次代を担う子どもたちへの教育的支援を充実させるなど、これまで以上に子どもの保育・教育環境の向上を図ります。

<主な行政の役割と取組イメージ>

行政の役割		取組イメージ
ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う(P.23)	➡	課題に応じた待機児童対策と幼児教育の充実
運動を通じた体力向上を推進する(P.25)	➡	「みんな泳げるプロジェクト」などによる体力向上の推進
安心して通学・通園できる環境を整える(P.31)	➡	学校適正配置による教育環境の充実と跡地利活用の検討
データを利活用するなど、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上を図る(P.31)	➡	認知機能の強化による基礎学力の向上と特別支援教育の充実

<みんなでめざそう値>

- 保育所待機児童数[再掲] 25人(2022年) → 0人(2026年)
- チビッコホーム(学童保育)待機児童数[再掲] 28人(2022年) → 0人(2026年)
- 全国学力・学習状況調査における正答率40%以下の児童生徒の割合[再掲]
 - 小6 国語 25.7%→14.0% 算数 16.8%→11.0%
 - 中3 国語 24.2%→11.0% 数学 38.4%→25.0% (いずれも2021年→2025年)

重点目標の設定にあたっては、市長の公約の実現のほか、急速な少子高齢化や人口減少への対策を講じ、将来にわたり活力あるまちの維持をめざすために必要な施策(まち・ひと・しごと創生に関する取組)を考慮しています。

なお、本市におけるまち・ひと・しごと創生の考え方(まち・ひと・しごと創生総合戦略)については、109～117ページをご覧ください。

子育て世代の定住促進 と「子育てしやすいまち」のイメージアップ

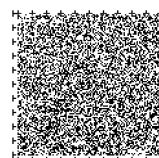
子育て家庭の経済的な負担軽減などを積極的に行い、子育て世代の定住促進を図ることで、子育て世代の社会減(転出超過)の抑制につなげます。また、子育て支援策などを効果的にPRし、「子育てしやすいまち」のイメージ醸成・定着を図るとともに、子育て世代へのアプローチをきっかけに、まち全体のイメージ向上をめざします。

<主な行政の役割と取組イメージ>

行政の役割	取組イメージ
妊娠を望む家庭や 子育て家庭の経済的な支援を行う(P.21)	➡ 子育て家庭の経済的な負担軽減の拡充
子育て家庭が安心して過ごせる場を 提供する(P.21)	➡ 親子の居場所づくりの創出
子育て家庭が安心して相談できる場や 機会の提供、子育て情報の発信を行う(P.21)	➡ 子育て情報の集約化と効果的な発信
地域資源やまちづくりの情報を収集し、 発信を効果的にを行う(P.93)	➡ 子育てを軸とした 戦略的なシティセールスの展開

<みんなでめざそう値>

- 子育て世代の社会増減数 ▲623人(2021年) → ▲400人(2025年)
- 岸和田は子どもを生み育てやすいと感じている市民の割合「再掲」
27.8%(2022年) → 31.0%(2026年)



重点目標 2

経済・交流が活発な岸和田の実現

関連する個別目標の方向性 地域の事業者や個人事業主が活躍し、事業継続ができる環境づくりを進める / 新たに市内で活動する事業者や個人事業主が、活動しやすい環境づくりを進める / 関西国際空港とのアクセス性を活かすとともに、観光資源が充実し、観光客が過ごしやすい環境づくりを進める / 地域の活性化を導く拠点の形成を進める / 拠点とのアクセス性の向上を図る

地域経済の軸となる産業・観光の活性化

新たな産業の振興や創業支援、時代に対応した経営支援の強化を図るとともに、岸和田城周辺を中心とした観光資源や食による観光促進など、様々な地域資源を活用して地域経済の活性化を図ります。

<主な行政の役割と取組イメージ>

行政の役割	取組イメージ
事業者等の経営や活動を支援する(P.87)	→ 新たな産業の創出と 事業者・創業希望者への支援強化
企業誘致や創業を支援する(P.87)	
観光資源の磨き上げや新たな観光資源の創出を支援する(P.91)	→ 城周辺を中心とした観光資源や 食による観光促進

<みんなでめざそう値>

- 地域経済循環率 73.6%(2018年) → 75.0%(2024年)
- 1年間の主要観光施設及びイベント等への入込客数[再掲]
1,651,317人(2021年) → 2,570,000人(2025年)

泉州山手線沿道を中心とした拠点形成 と アクセス性の向上

整備が計画されている泉州山手線(広域連携軸)と、市域を海から山に結ぶ地域連携軸の交通結節点や駅周辺、ゆめみヶ丘岸和田などを中心に拠点形成を図ります。また、生活利便性を高めるため、地域公共交通の充実と持続可能な移動手段の確保を図ります。

<主な行政の役割と取組イメージ>

行政の役割	取組イメージ
地域の活性化につながる 新たな拠点の整備を進める(P.95)	→ 泉州山手線沿道及び駅周辺、 ゆめみヶ丘岸和田等のまちづくり推進
地域の特性に応じた最適な交通手段の 検討・構築を進める(P.95)	→ 地域公共交通の充実と 持続可能な移動手段の確保

<みんなでめざそう値>

- 拠点ににぎわいがあると感じている市民の割合[再掲]
基準値及び目標値は後年度に設定
- 市内をスムーズに移動できると感じている市民の割合[再掲]
36.1%(2022年) → 39.0%(2026年)

重点目標 3

都市課題を解決する仕組みづくりの実現

関連する個別目標の方向性 省エネルギー化や再生可能エネルギーによる脱炭素を推進し、地球温暖化防止を進める / 地域の担い手が育ち、まちづくり活動が活発に行われている環境づくりを進める / 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める

重点目標の方向性 ①

地域活動の活性化に向けた支援

市民の自主的・主体的な地域活動を活性化し、コミュニティを強化するため、地区市民協議会などによる地域課題に対応する積極的な活動に対して、支援策の検討・充実を図るとともに、市民活動をつなぐ市民活動サポートセンターなどの中間支援組織の強化を図ります。

<主な行政の役割と取組イメージ>

行政の役割	取組イメージ
地域のコミュニティ活動を支援するとともに、市民活動に参加しやすい環境づくりを進める (P.101)	→ 地域課題に対応するための活動に対する支援の充実 → 市民活動をつなぐ中間支援組織の強化

<みんなでめざそう値>

- この1年間にボランティア活動や地域の自治活動に参加したことがある市民の割合[再掲] 19.7%(2022年) → 22.0%(2026年)
- 市民活動サポートセンターの利用者数[再掲] 1,814人(2021年) → 1,840人(2025年)

重点目標の方向性 ②

未来志向の都市経営*

スマートシティやカーボン・ニュートラルの実現に向けたロードマップに加え、様々な取組についての検討・推進を図ることで、未来志向の都市経営をめざします。また、行政内部においてDX(デジタル・トランスフォーメーション)*を推進し、持続可能な都市経営の基盤となる健全な行財政運営を進めます。

<主な行政の役割と取組イメージ>

行政の役割	取組イメージ
広域的視点をもって、時代に応じた施策を積極的に推進する (P.103)	→ 岸和田版スマートシティ構想／カーボン・ニュートラルをめざす計画の策定・推進
市及び公営企業の経営の効率性を確保する (P.103)	→ 行政DXと行財政改革の推進

<みんなでめざそう値>

- 岸和田版スマートシティ構想の策定 2023年度中に検討・策定
- 市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量[再掲] 4.2t-CO₂(2019年) → 3.9t-CO₂(2030年)

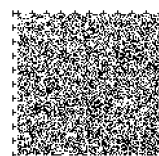
用語解説

都市経営

多種多様な主体によって構成される本市の地域や都市全体について、それらのもつ経営資源を最大限に活かして、地域や都市全体の価値を高め、各主体の満足度を高める活動・営みのこと

DX(デジタル・トランスフォーメーション)

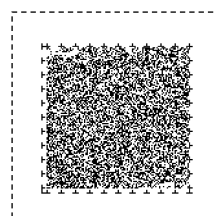
データとデジタル技術を用いた変革により、ビジネスや行政運営、人々の生活を発展させること







本編



岸和田の次世代を 育むまち

安心して子どもを生み、育てられている

- ① 妊産婦や乳幼児の切れ目のない健康づくりを進める
- ② 妊娠を望む家庭や子育て家庭の不安解消、経済的負担の軽減を進める

働きながら子育てができている

- ① 保育を必要とする人が、安心して子どもを預けられる環境づくりを進める

子どもの健康と安全が保たれている

- ① 健診などによる疾病の早期発見・予防など子どもの健康づくりを進める
- ② 食育や体力づくりなど子どもの健康な身体づくりを進める
- ③ 登下校をはじめ、子どもが安全に学校や地域で過ごせる環境づくりを進める
- ④ 障害のある子どもの発達支援とともに、家庭生活での負担軽減を進める
- ⑤ 育てにくさを感じる親への支援や、児童虐待に関する相談の充実、早期発見・早期対応を進める

子どもの個性や能力が豊かに育まれている

- ① 適正な就学・就園や経済的な支援により教育機会を確保する
- ② 子ども一人ひとりが輝くための適切な教育支援を行う
- ③ 学校園の適切な維持管理や魅力ある運営を行う
- ④ 地域と連携し、子どもの社会的な心を育む
- ⑤ 地域の産業を担う人材育成を進める

生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている

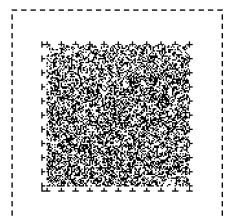
- ① 様々な学びの活動や知識、経験の活用を進めるとともに、コミュニティのつながりを創出する
- ② スポーツへの親しみや参画の向上を図るとともに、スポーツができる環境づくりを進める
- ③ 芸術や文化への親しみや参画の機会を通して、心の豊かさの醸成を図る

誰もが社会参加し、活躍できる場がつけられている

- ① 働きたい人の就労機会の確保を進める
- ② 市内事業所の労働環境の向上を進める
- ③ 障害者の就労支援の充実と生きがいづくりを進める
- ④ 高齢者の雇用促進と生きがいづくりを進める

郷土の歴史や文化が引き継がれている

- ① 郷土の歴史や文化に触れる機会をつくる
- ② 岸和田の歴史や文化財の保存・活用を進める



個別目標 安心して子どもを生み、育てられている

個別目標の 方向性

① 妊産婦や乳幼児の切れ目のない健康づくりを進める

現状と課題

近年の晩婚化や未婚率の上昇、女性の就業率の増加などにより、本市においても出生率の減少や高齢出産数の増加がみられる中、乳児死亡率がやや高い傾向にあります。

今後も、妊産婦や乳幼児の健康づくりを支援するため、岸和田市内における産科診療体制の充実をはじめ、妊産婦家庭への個別相談などの充実や健診の促進が求められています。

みんなでめざそう値

指標A 乳児死亡率(人口1,000人当たり)

1.5% ▶ 0%
(2020年) (2024年)

指標B 幼児のう歯(虫歯)保有率

19.5% ▶ 減少
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 妊娠を望む家庭や子育て家庭の不安解消、 経済的負担の軽減を進める

重点目標

現状と課題

核家族化や都市化、さらに新型コロナウイルス感染症等の影響から、家庭の子育て機能や地域社会のつながりは弱まる傾向にあり、子育てに不安を抱きつつも相談することができず孤立する家庭や経済的に不安を抱える家庭の増加、子どもの貧困などの問題がみられます。

地域で気軽に相談できる機会や居場所がつけられるとともに、子育てに関する情報発信や共有できる仕組み、経済的な負担の軽減など、安心して子どもを育てるための環境づくりが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 地域子育て支援センターの利用者数

4,824人 ▶ 8,319人
(2021年) (2025年)

指標B 岸和田は子どもを生み育てやすいと感じている市民の割合

27.8% ▶ 31.0%
(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

SNS

「Social Networking Service(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」の頭文字をとったもので、インターネット上で社会的ネットワークを構築可能にするサービスのこと

妊産婦や乳幼児の健康づくり、妊娠を望む家庭や子育て家庭の精神的・経済的負担の軽減を進めることで、安心して子どもを生み、育てやすい環境をめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 妊婦健診や乳幼児健診など、健診をしっかり受ける
- 乳幼児の健康管理や成長発達の把握に努め、必要に応じて育児相談を受ける
- 地域住民は、子育てのための活動に積極的に取り組む



事業者・団体・地域など

- 事業者は、子育てにやさしい就業環境づくりに取り組む



行政

- 個別訪問など、妊産婦や乳幼児の健康管理を支援する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 保健師など専門職への相談を仲介する

関連する 主な個別計画

□ 岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画

岸和田の次世代を
育むまち

健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち

想定される公民の役割



個人や家庭

- 子育てに関するイベントなどに積極的に参加するとともに、SNS*を活用して情報を発信する



事業者・団体・地域など

- SNSを活用して、子育てに関するイベントなどの情報を発信する
- 親子で楽しめる場を提供する
- 子育てに関する取組へ協賛する



行政

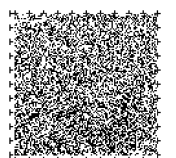
- 子育て家庭が安心して相談できる場や機会の提供、子育て情報の発信を行う
- 妊娠を望む家庭や子育て家庭の経済的な支援を行う
- 子育て家庭が安心して過ごせる場を提供する
- 子育てに関する講座が受講できる機会を提供する
- 母子の保護と自立のための支援を行う

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 関係機関や団体と子育て家庭、子育て家庭同士をつなぐ

関連する 主な個別計画

□ 第2期岸和田市子ども・子育て支援事業計画



Uni-Voice

個別目標 働きながら子育てができている

個別目標の 方向性

① 保育を必要とする人が、安心して子どもを預けられる 環境づくりを進める

重点目標

現状と課題

共働き世帯の増加と核家族化により、家庭内だけで子どもを育てることが難しくなっています。本市においては、子育て世代の女性就業率の上昇がみられる一方、民間も含め、保育の量の確保が間に合っておらず、子どもを預けたいのに預けられないという待機児童の問題も依然として解消していない状況です。

また、育児休暇の取得率も上昇傾向にはありますが、進んでいない事業者や男性の取得率の向上も課題になっています。

就学前、学童期における保育の質と量の確保に加え、保護者が安心して働きながら子育てできるつながりの創出や機会が必要です。

みんなでめざそう値

指標A 保育所待機児童数

25人 ▶ 0人

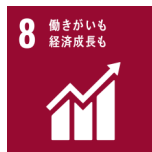
(2022年) (2026年)

指標B チビッコホーム*待機児童数

28人 ▶ 0人

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

チビッコホーム

本市が開設している学童保育(保護者が労働等により昼間家庭にいない児童に対して、授業の終了後などに学校の余裕教室などを利用して適切な遊び、生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業(放課後児童健全育成事業))の名称のこと



子育て家庭が、働きながら安心して子育てできる環境をめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 性別に関係なく、育休・産休の取得を理解し、協力する
- 共働き世帯や同じ立場の人と交流し、悩みや経験を共有する
- 地域活動に参加し、子育てや教育について話せる場をつくる
- 結婚や離婚について気軽に経験を話せる場をつくる
- 子育てに悩んでいる人が、子育て経験のある人からサポートを受けられる環境をつくる



事業者・団体・地域など

- 従業員が育休・産休など、子どもに関する休みを取りやすい環境をつくる
- 子どもの保育所等への送迎を支援する
- 遊休不動産などを活用して、企業内保育所など、子どもを預けられる施設を整備する



行政

- ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う
- 子育て家庭が安心して相談できる場や機会の提供、子育て情報の発信を行う(P.21再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 保育情報の提供やマッチング支援を行う

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市子ども・子育て支援事業計画
- 岸和田市立幼稚園及び保育所再編個別計画
- 岸和田市立幼稚園及び保育所再編方針

岸和田の次世代を
育むまち

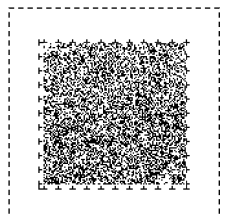
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 子どもの健康と安全が保たれている

個別目標の 方向性

① 健診などによる疾病の早期発見・予防など 子どもの健康づくりを進める

現状と課題

子どもの心身の健康を保持するためには、疾病の早期発見と予防を図ることに加えて規則正しい生活習慣を身につけることが大切です。

う歯(虫歯)のある子どもの割合は減少傾向にあります。歯や口腔も含めた定期的な健診など子どもの健康管理を行うとともに、保護者の生活習慣の見直しが必要です。

みんなでめざそう値

指標A 児童生徒のう歯(虫歯)保有率

児童 50.7% ▶ 50.7%

生徒 35.2% ▶ 35.2%

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 食育や体力づくりなど子どもの健康な身体づくりを進める

重点目標

現状と課題

乳幼児期は、基本的な生活習慣を身につけ、学童・思春期は、きちんと食べ、よく遊び、よく学び元気にのびのび育つ環境を整えることが、子どもの発育や成長を促すことにつながります。

本市においては、毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、増加傾向にあります。全国平均より低い。引き続き、適切な食習慣の理解促進が必要です。

また、健全な発達・成長を支える体力づくりについても、学校と連携した取組などの推進を図り、児童生徒の体力・運動能力の向上をめざすことが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 「朝食を毎日食べていますか」に肯定的回答をした児童生徒の割合

小6 92.5% ▶ 94.9% / 中3 87.9% ▶ 92.8%

指標B 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点がDまたはE(下位層)の児童生徒の割合

小5 男子 35.9% ▶ 33.0% / 女子 30.8% ▶ 27.6%

中2 男子 32.2% ▶ 30.0% / 女子 19.7% ▶ 15.4%

<数値はいずれも 2021年▶2025年>

特に関連する
SDGs
目標





すべての子どもたちが心身ともに健康で、安全な環境のもとで適正な教育を受けられていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 家庭で規則正しい生活ができる環境をつくる
- 子どもの健康に関心をもつ



事業者・団体・地域など

- 健康増進イベント等を開催・協力する



行政

- 健康診断等により、疾病などの早期発見と予防を図り、子どもの健康管理を支援する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 家庭と保健師などの専門職をつなぐ

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市教育大綱
- 岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画



個人や家庭

- バランスのよい食事の提供など、家庭内での食育を心がける
- よりよい生活習慣や運動習慣を身につける



事業者・団体・地域など

- 農水産業をはじめとした事業者は、食育を推進するための体験や学習に協力する



行政

- 学校生活全般において食育を推進する
- 運動を通じた体力向上を推進する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 食育と農水産業などを関連づけ、様々な体験や学習を行う

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市教育大綱
- 岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画

岸和田の次世代を
育むまち

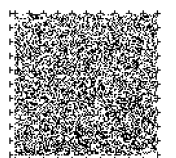
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなが
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 子どもの健康と安全が保たれている

個別目標の 方向性

③ 登下校をはじめ、子どもが安全に学校や地域で過ごせる 環境づくりを進める

現状と課題

全国各地で子どもが巻き込まれる痛ましい事故や事件が発生しています。

このような中、小学校や幼稚園、保育所などの施設や通学路、さらには地域社会における安全確保のため、学校・家庭・地域の関係機関や団体が密接に連携して、登下校時や地域内における見守り、子どもの安全な遊び場の確保の取組を強化する必要があります。

みんなでめざそう値

指標A 新規のこども110番協力件数
(家庭や事業所など)

13件 ▶ 30件

(2022年) (2026年)

指標B 子どもの安全見まもり隊協力者数

2,566人 ▶ 2,600人

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

④ 障害のある子どもの発達支援とともに、 家庭生活での負担軽減を進める

現状と課題

発達障害等により発達に支援を要する子どもが増加する中、障害の早期発見と早期療育の充実など、保護者のニーズに合った入所児童の支援体制の強化を図るとともに、相談体制の強化が求められています。

みんなでめざそう値

指標A 総合通園センター受入待機児童数

0人 ▶ 0人

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標





すべての子どもたちが心身ともに健康で、安全な環境のもとで適正な教育を受けられていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 家庭で安全確保のための行動や知識を教える
- 子どもの安全見まもり隊に参加するなど、地域の子どもと顔を合わせた交流をする
- 散歩や買い物など、日常生活の中で地域の子どもたちを見守る



事業者・団体・地域など

- 子どもの見守り活動やこども110番などに協力する
- 活動情報を広く発信する
- 子どもの居場所づくりを行う
- 子どもや高齢者など多世代交流の機会をつくる



行政

- 通学路の巡回パトロールなど、学校や登下校時、地域での安全対策を実施する
- 地域で安心して遊べる環境を整える
- 交通事故を未然に防ぐために必要な空間や施設等を整備する(P.67再掲)
- 地域のコミュニティ活動を支援するとともに、市民活動に参加しやすい環境づくりを進める(P.101再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 見守り活動や子どもの居場所づくりを行う団体などを支援する
- 団体間の連携を強化する

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市教育大綱
- 岸和田市教育重点施策

岸和田の次世代を
育むまち

健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち

想定される公民の役割



個人や家庭

- 不安なことは、専門機関などに相談する



事業者・団体・地域など

- 地域で子どもたちを見守る



行政

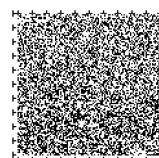
- 総合通園センターなど、障害のある子どもと家庭の支援体制を強化する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 障害のある子どもをもつ家庭と専門機関をつなぐ

関連する 主な個別計画

- 第5次岸和田市地域福祉計画
- 第2期岸和田市障害児福祉計画



Uni-Voice

個別目標 子どもの健康と安全が保たれている

個別目標の 方向性

⑤ 育てにくさを感じる親への支援や、 児童虐待に関する相談の充実、早期発見・早期対応を進める

現状と課題

子どものいる家庭では、経済的不安、育児不安、育児に伴う負担などのストレスや核家族化、新型コロナウイルス感染症などの影響に伴う社会的孤立により、弱者である子どもへの虐待が発生するケースがあります。

本市における早期発見による通告件数は増加しており、関係機関と連携しながら継続的支援や見守りを必要とする案件の割合も増加しています。

子どもへの虐待を未然に防ぐための啓発活動とともに、様々な分野における既存の相談援助活動を有機的にネットワーク化し、継続的なソーシャルワーク*を行うことが求められています。

みんなでめざそう値

指標A

児童虐待や虐待の疑いを含む
相談の受付人数(児童1,000人当たり)

10.4人 ▶ 増加

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

ソーシャルワーク

社会的な問題の解決を援助するための社会福祉の実践的活動のこと

ヤングケアラー

本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと



すべての子どもたちが心身ともに健康で、安全な環境のもとで適正な教育を受けられていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 思いやりや自主性・責任感を育む家庭をつくる
- 家庭だけで問題を抱え込まず、専門機関などに相談する
- 地域の子どもの目に向け、あいさつを交わしながら見守り、注意を払う
- ヤングケアラー*や里親制度など、児童福祉の課題・取組に関心をもつ



事業者・団体・地域など

- 地域での交流の場をつくる
- 里親制度など児童福祉の取組について周知・協力する



行政

- 児童虐待に関する相談や早期発見・早期対応等の体制を強化するなど、児童福祉に関する取組を支援する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 問題を抱える家庭と専門機関をつなぐ
- ヤングケアラーなどの実態を把握し、支援を推進する

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市子ども・子育て支援事業計画

岸和田の次世代を
育むまち

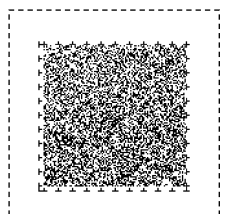
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 子どもの個性や能力が豊かに育まれている

個別目標の 方向性

重点目標

① 適正な就学・就園や経済的な支援により教育機会を確保する

現状と課題

幼児・児童・生徒が、家庭の経済状況などに左右されず、誰もが安心して学べる環境が必要です。

近年、就学奨励の認定率の低下がみられますが、家庭環境の複雑化や経済状況が悪化している家庭の増加に対応するため、引き続き、柔軟な支援、対応が求められています。

また、少子化に伴う学校当たりの児童数・生徒数の減少などに対応するため、子どもの通学環境などに配慮しつつ、適正な規模の学校施設と適正な学校配置を進める必要があります。

みんなでめざそう値

指標A

学齢期児童生徒において
就学している者の割合

99.98% ▶ 100%
(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

重点目標

② 子ども一人ひとりが輝くための適切な教育支援を行う

現状と課題

一人ひとりが自立し、社会の一員として主体的に行動し、活躍するためには、それぞれの子どもがもつ個性や能力を伸ばすとともに、それらを発揮できる環境づくりが必要です。

つまり、「確かな学力」をはじめとした「生きる力」の育成であり、一人ひとりに目を向けた教育が重要です。

本市における学力状況は依然として厳しく、これを克服することが喫緊の課題である一方、ICT技術*を活用した教育の充実やそれぞれの子どもたちが輝く取組を、学校と家庭、地域が連携・協力して支援することが求められています。

みんなでめざそう値

指標A

全国学力・学習状況調査における
正答率40%以下の児童生徒の割合

小6 国語 25.7% ▶ 14.0% / 算数 16.8% ▶ 11.0%
中3 国語 24.2% ▶ 11.0% / 数学 38.4% ▶ 25.0%
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

ICT技術

Information and Communications Technologyの略で、通信を使ってデジタル化された情報をやりとりする技術のこと(情報技術(IT)を拡張した考え方であり、より情報が行き交う“通信”の役割を強調したもの)



すべての子どもたちが夢や目標をもち、地域の中で確かな学力や豊かな人間性、社会性を身につけ、生きる力を育んでいることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 子どもの教育に関心をもつ



事業者・団体・地域など

- 就学の支援を行う



行政

- 安心して通学・通園できる環境を整える
- 経済的な支援を行う

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 経済的な不安がある家庭と福祉サービスをつなぐ

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市教育大綱
- 岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針

岸和田の次世代を
育むまち

健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち

想定される公民の役割



個人や家庭

- 子どもが勉強や好きなことに取り組めるよう、家庭は子どもの関心ごとを応援する
- 楽しみながら、自発的に勉強したくなる環境づくりや工夫を行う
- 勉強や知識が将来に役立つこと（事例など）を子どもと共有する



事業者・団体・地域など

- 事業者は、空き店舗等を活用し自習スペースなどを提供する
- 学生が子どもに勉強を教える機会を提供する
- 地域の子どもと学生が交流する機会を設ける
- 教育関係者が定年後も学習指導などを行える場をつくる
- 地域外の人材を受け入れ、地域外の団体との連携を強化する



行政

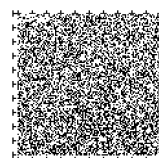
- データを利活用するなど、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上を図る
- 子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な支援を行う
- 子どもたちの心の成長のために、様々な体験を行える機会や場をつくる（P.33再掲）
- 学校と地域が一体となって、地域の教育力の向上を図る（P.33再掲）

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 児童生徒の抱える問題を、福祉的な観点から支援する
- 大学と連携し、学力向上に向けた支援を行う

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市教育大綱
- 岸和田市小中一貫教育基本方針
- 岸和田市教育重点施策



Uni-Voice

個別目標 子どもの個性や能力が豊かに育まれている

個別目標の 方向性

③ 学校園の適切な維持管理や魅力ある運営を行う

現状と課題

少子化や学校施設の老朽化など、学校を取り巻く環境が変化しています。

このような中、将来を見据えた計画的な学校施設の維持管理・充実を図ることは、次代を担う子どもたちの人間形成の礎をなす上で重要なテーマです。

また、学校施設環境の向上だけではなく、教員研修の充実などにより、「主体的・対話的で深い学び」の実践を図り、学校の魅力向上につなげる必要があります。

みんなでめざそう値

指標A 学校施設に係る
長寿命化計画の進捗率

0% ▶ 15.0%
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

④ 地域と連携し、子どもの社会的な心を育む

現状と課題

心身ともに健全に子どもが育つためには、よく遊び、よく学ぶことのできる、のびのびとした環境とともに、他者を理解する心の醸成が大切です。

近年は、都市化に伴う地域コミュニティの希薄化が進んでおり、子どもが異なる世代の人たちや社会との関わりをもつ機会が徐々に少なくなっていますが、子どもが社会性を身につけるためには、家庭や学校だけではなく、地域活動などを通じて学び、地域全体で子どもを守り育てる体制づくりが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 「人が困っているときは、進んで助ける」と肯定的回答をした児童生徒の割合

小6 87.9% ▶ 88.7%
中3 83.1% ▶ 88.5%
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標





すべての子どもたちが夢や目標をもち、地域の中で確かな学力や豊かな人間性、社会性を身につけ、生きる力を育んでいることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 学校行事に積極的に参加する
- 学校施設を大切に使う
- 学校教育に関心をもち、教育について家庭で考える



事業者・団体・地域など

- 学校と地域が一体となって、子どもたちのための学校づくりを進める



行政

- 児童生徒が安全かつ快適に学べる学校施設環境を整える
- 教育行政を円滑かつ効果的に運営し、活力ある学校づくりを進める

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 学校と地域のつながりの強化を図る

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市教育大綱
- 岸和田市学校施設長寿命化計画

岸和田の次世代を
育むまち

健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち

想定される公民の役割



個人や家庭

- 近所であいさつや声がけをする
- 親子で地域活動に参加する
- 思いやりや自主性・責任感を育む家庭をつくる(P.29再掲)



事業者・団体・地域など

- 子どもや高齢者など多世代交流の機会をつくる
- 事業者は、職場体験学習を行う児童生徒を積極的に受け入れる
- 子どもや若者が参加しやすい地域での取組を行う
- 子どもと地域が関わる機会を創出する



行政

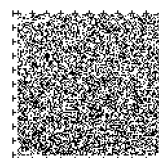
- 子どもたちの心の成長のために、様々な体験を行える機会や場をつくる
- 学校と地域が一体となって、地域の教育力の向上を図る
- 児童生徒の不安や悩みに対する相談・指導の体制を整える
- 地域のコミュニティ活動を支援するとともに、市民活動に参加しやすい環境づくりを進める(P.101再掲)
- 困ったときに、地域の中でお互いに助けあえる関係づくりを支援する(P.57再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 家庭と地域、学校が一体となって子どもを育む

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市教育大綱
- 岸和田市子ども読書活動推進計画



Uni-Voice

個別目標 子どもの個性や能力が豊かに育まれている

個別目標の 方向性

⑤ 地域の産業を担う人材育成を進める

現状と課題

産業分野をはじめ、地域社会に貢献できる人材の育成をめざすため、市立産業高等学校においては、時代のニーズに応じた専門教育の充実や地域と連携した取組を進める必要があります。

みんなでめざそう値

指標A 市立産業高校の就職希望者のうち、市内事業者または市内に支店のある事業者への就職率

26.3% ▶ 増加

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標





すべての子どもたちが夢や目標をもち、地域の中で確かな学力や豊かな人間性、社会性を身につけ、生きる力を育んでいることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 岸和田の産業を盛り上げるため、積極的に知識や技術の習得に努める
- 地元の特色について学ぶ



事業者・団体・地域など

- 地場産業を紹介し、体験型イベントなどを開催する
- 市内の就職希望者を積極的に雇用する



行政

- 時代を先取りする中等・高等教育の機会や場、教育内容の充実を図る

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 高校生と事業者がつながる機会を創出する

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市教育大綱
- 岸和田市教育重点施策

岸和田の次世代を
育むまち

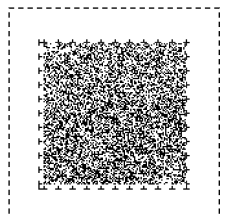
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている

個別目標の 方向性

① 様々な学びの活動や知識、経験の活用を進めるとともに、 コミュニティのつながりを創出する

現状と課題

人生100年時代の到来が予測される中、価値観の多様化が一段と進み、豊かで実り多い人生を過ごすため、人生のどの時期においても「自ら学ぶ喜び」を得ることができる生涯学習社会の実現が重要であり、学習の自由と多様性が、岸和田の人づくり・まちづくりにつながっていきます。

一方で、社会教育施設の老朽化の進行や利用者が減少している現状があります。そこで、新たな学びや自由な学びの場、また人々がつながる新しいコミュニティの場としていくため、時代にあった社会教育施設のあり方や活用方法について考えていく必要があります。

みんなでめざそう値

指標A この1年間に自分の経験や特技を
何らかの形で地域に活かしたことが
ある市民の割合
10.5% ▶ 13.0%
(2022年) (2026年)

指標B 市立図書館への登録率
27.9% ▶ 28.0%
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② スポーツへの親しみや参画の向上を図るとともに、 スポーツができる環境づくりを進める

現状と課題

市民の運動・スポーツの年間実施率をみると、40代以下の比較的若い世代の実施率が低い傾向にあります。

市民一人ひとりの多様なライフスタイルやライフステージに応じた運動・スポーツの機会や場の充実、きっかけづくりを通じて、「全世代の体力向上」を図っていく必要があります。

みんなでめざそう値

指標A スポーツ・運動を定期的(週1回以上)
にしている市民の割合
44.7% ▶ 60.9%
(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標





学習やスポーツ、芸術など多岐にわたる分野において、すべての人が自らの個性を活かし、世代間での交流が図られていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- イベントに参加するなど、公民館や図書館を積極的に利用する
- 趣味や特技を活かし、子どもをはじめ様々な人々と交流する



事業者・団体・地域など

- 施設開放などにより、市民の生涯学習活動を支援する
- 団体同士で交流する機会をつくり、ネットワークを広げる



行政

- 様々な学習を手軽に行える機会を提供する
- 多くの市民が学べる環境(場)を整える

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 子どもや若者が参加しやすい地域での取組を行う
- 社会教育施設などを活用した学びの場を創出する

関連する 主な個別計画

- 岸和田市生涯学習基本方針
- 岸和田市生涯学習実施計画
- 岸和田市立公民館及び青少年会館再編基本方針
- 岸和田市図書館基本計画

岸和田の次世代を
育むまち

健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち

想定される公民の役割



個人や家庭

- スポーツ活動に積極的に参加する
- スポーツに親しむ機会や場を自らつくり、広げる



事業者・団体・地域など

- 学生がスポーツなどを教え、一緒に楽しめる機会を提供する
- スポーツの成果を発揮・発表でき、地域に貢献できる機会や場をつくる
- 岸和田にゆかりのあるスポーツ選手を多方面から支援する



行政

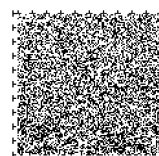
- スポーツ活動に参加できる機会を提供する
- 安全にスポーツができる環境(場)を整える

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 市民が参加しやすい地域での取組を創出する

関連する 主な個別計画

- 岸和田市スポーツ推進計画
- 岸和田市立社会体育施設再編基本方針



Uni-Voice

個別目標 生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている

個別目標の 方向性

③ 芸術や文化への親しみや参画の機会を通して、 心の豊かさの醸成を図る

現状と課題

本市では、多様な文化団体や市民による自発的・自主的な文化活動が展開されていますが、その一方で、少子高齢化により、文化活動を担う人材の減少が危惧されています。各文化団体においても、日常の活動の軸となる人材の高齢化や、後継となる人材の育成や確保などの課題に直面しています。

このような中、誰もが心豊かに暮らせる文化のまちの実現を図っていくためには、多くの市民が芸術・文化に触れる機会や場、市民一人ひとりが自発的に文化活動を行えるよう支援することが求められています。

みんなでめざそう値

指標A

この1年間に芸術・文化活動(コンサートや演劇などの鑑賞を含む)を行ったことがある市民の割合

27.2% ▶ 30.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標





学習やスポーツ、芸術など多岐にわたる分野において、すべての人が自らの個性を活かし、世代間での交流が図られていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 芸術や文化に積極的に触れる
- 芸術・文化活動の機会や場を自らつくり、広げる



事業者・団体・地域など

- 岸和田にゆかりのある芸術・文化活動者を支援する
- 芸術・文化の発表を通じて地域に貢献できる機会や場をつくる
- 学生などの若い世代が芸術や海外の文化などを教え、発信するなど、一緒に楽しめる機会を提供する
- だんじりをはじめ芸術・文化を紹介する機会をつくる



行政

- 芸術や文化に触れる機会を提供する
- 芸術や文化に触れる環境(場)を整える
- 子どもたちの心の成長のために、様々な体験を行える機会や場をつくる(P.33再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 市民が参加しやすい地域での取組を創出する

関連する 主な個別計画

- 文化 花 咲かそう推進プランー岸和田市文化振興計画ー

岸和田の次世代を
育むまち

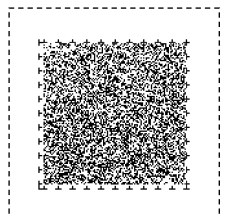
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 誰もが社会参加し、活躍できる場がつけられている

個別目標の 方向性

① 働きたい人の就労機会の確保を進める

現状と課題

新型コロナウイルス感染症の影響などから、ハローワーク岸和田管内の有効求人倍率*が低下しています。

働く意欲のある人に、働く機会や場の安定確保を図るためには、就労困難者に対する就労支援をはじめ、職を求める人と、企業の求める人材のミスマッチの解消などに取り組んでいくことが必要です。

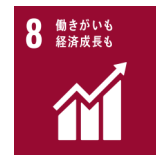
みんなでめざそう値

指標A 有効求人倍率

0.74 ▶ 増加

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 市内事業所の労働環境の向上を進める

現状と課題

本市には、景気の変動などによる影響を受けやすい中小企業が多くあります。

そのような中、労働条件や福利厚生面などにおいて、すべての人に働きがいがあり、新しい生活様式に対応した労働環境など、ワーク・ライフ・バランス*が保たれた労働環境の実現が求められています。

みんなでめざそう値

指標A 労働環境に満足していると
感じている市民の割合(市内従事者)

34.6% ▶ 39.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

有効求人倍率

公共職業安定所(ハローワーク)における求職者数に対する求人数の割合のことで、1人の求職者に対して、どれだけの求人数があるのかを示す指標のこと

ワーク・ライフ・バランス

一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期・中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること



性別や年齢、障害の有無にかかわらず、すべての人がいきいきと働き、活躍できる環境が整っていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 専門的な知識や技術の習得など、自ら就業のための努力をする



事業者・団体・地域など

- 事業者は、市内での雇用の場の創出に努め、地域に密着した事業活動を行う



行政

- 就職困難者の地域での雇用を創出するための支援を行う

各主体をつなぐ取組や
公民連携の取組例

- 就労支援のマッチングを行う

関連する
主な個別計画

- 新・産業ビジョン岸和田
- 岸和田市人権施策推進プラン
- 第4期きしわだ男女共同参画推進プラン



個人や家庭

- 職場のルールを守る
- 働く仲間と協力しあう



事業者・団体・地域など

- 雇用者は、魅力ある職場づくりに努める
- 雇用者は、従業員に対する健康管理を充実させる



行政

- 市内事業所の勤労者の福祉対策を支援する
- 市内で働く労働者の権利が守られる環境づくりを支援する

各主体をつなぐ取組や
公民連携の取組例

- 市内事業所の労働環境などを把握する

関連する
主な個別計画

- 新・産業ビジョン岸和田
- 岸和田市人権施策推進プラン
- 第4期きしわだ男女共同参画推進プラン

岸和田の次世代を
育むまち

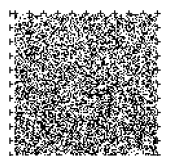
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 誰もが社会参加し、活躍できる場がつけられている

個別目標の 方向性

③ 障害者の就労支援の充実と生きがいづくりを進める

現状と課題

障害者就労支援施策の充実や障害者の就労意欲の高まりを受け、企業などにおいて働く障害者の数は年々増加しています。

引き続き、障害者の外出の機会や、障害者が従事できる仕事を増やすなど、余暇活動や就労などを通して生きがいを感じながら生活できるよう、社会全体で様々な支援が必要です。

みんなでめざそう値

指標A

長期的な病気や障害を抱えている人のうち、生きがいを感じることもある市民の割合

42.7% ▶ 47.0%

(2022年) (2026年)

指標B

市役所(市長部局)における障害のある人の雇用率

2.57% ▶ 2.60%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

④ 高齢者の雇用促進と生きがいづくりを進める

現状と課題

平均寿命の伸長に伴い、社会や地域に貢献したいと考えている元気な高齢者や、働けるうちは働きたいと就労を希望する高齢者が増えています。就労や様々な社会活動へ参加することは、高齢者にとって豊かな人生を過ごしていくための重要な要素であり、地域の担い手としても活躍していくことが期待されています。

老人クラブの会員数やシルバー人材センターへの登録者数は減少傾向にありますが、ニーズにあった業務の拡大など、引き続き、高齢者が長年培った経験や知識、能力などを、就労や地域活動などに活かせるような環境を整えることが必要です。

みんなでめざそう値

指標A

生きがいを感じることもある65歳以上の市民の割合

50.0% ▶ 54.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説 リスキリング

新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得すること



性別や年齢、障害の有無にかかわらず、すべての人がいきいきと働き、活躍できる環境が整っていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 障害者自ら積極的に自己実現に向けて取り組む
- 障害に対する理解を深め、普段から声かけやコミュニケーションを図る
- 障害者福祉団体などの取組を支援する



事業者・団体・地域など

- 事業者は、障害者雇用に対する理解を深め、積極的な雇用を行う
- 思いやりをもって、合理的配慮を行うとともに、障害者の社会参加を支援する



行政

- 障害に対する理解を促進するとともに、障害者の雇用や社会参加の機会・場を充実させる
- 障害者福祉団体などの取組を支援する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 障害者と企業・団体などの結びつきを創出する

関連する 主な個別計画

- 新・産業ビジョン岸和田
- 第5次岸和田市障害者計画
- 第6期岸和田市障害福祉計画
- 第2期岸和田市障害児福祉計画
- 障害者活躍推進計画(岸和田市)



個人や家庭

- 近所であいさつや声かけをし、地域とのつながりをつくる
- 日頃から社会に参加し、健康でいきいきと生活できるように心がける
- ボランティア活動などに積極的に参加する



事業者・団体・地域など

- 高齢者が活躍できる仕事やリスキリング*の機会をつくる
- 老人クラブやグランドゴルフチームなど、高齢者の就労や地域活動への参加を促進する



行政

- 高齢者の就労や生きがいづくりを支援する
- 様々な学習を手軽に行える機会を提供する(P.37再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 高齢者の活動を指導する担い手を支援する
- 働きたい高齢者と仕事のマッチングを支援する

関連する 主な個別計画

- 新・産業ビジョン岸和田
- 岸和田市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画

岸和田の次世代を
育むまち

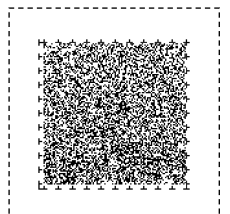
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなが
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 郷土の歴史や文化が引き継がれている

個別目標の 方向性

① 郷土の歴史や文化に触れる機会をつくる

現状と課題

郷土の歴史や文化に触れることは、豊かな人間性や創造性の構築、郷土への愛着に大きく影響します。

また、郷土の歴史や文化を保存するだけでなく、観光施策と連携するなど、これまで以上に活用していくことも重要です。

そのためには、まず、文化を通じて郷土の歴史に触れる機会を創出し、市民みんなの理解を深めることが求められています。

みんなでめざそう値

指標A

この1年間に郷土の歴史や文化財に触れる機会があった市民の割合

22.7% ▶ 25.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 岸和田の歴史や文化財の保存・活用を進める

現状と課題

人々と地域との関係性が希薄になりつつある中、あらためて私たちの郷土に残る文化財などを保存・活用し、郷土への愛着を醸成する必要があります。

また、本市には数多くの文化財が分布しており、市民みんなの郷土への理解を深めるためにも、歴史や文化のさらなる発信が求められています。

みんなでめざそう値

指標A

市内の指定文化財及び登録有形文化財の数

52件 ▶ 52件

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



▶▶▶ みんなが郷土の歴史や文化に関心をもち、次世代にしっかりと引き継がれていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 郷土の歴史や文化に関心をもつ
- 郷土の歴史的資源や地域の伝統文化に触れ、学ぶとともに、情報を発信する



事業者・団体・地域など

- 郷土の歴史や文化について伝え、広げる
- だんじりをはじめとした伝統文化を身近に感じられる機会をつくる



行政

- 郷土の歴史や文化に触れることができる環境をつくる
- 地域資源やまちづくりの情報を収集し、発信を効果的に行う（P.93再掲）

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 岸和田の歴史や文化を活用し、地域のつながりを創出する
- 観光と連携するなど、多面的な活用を行う

関連する 主な個別計画

- 岸和田城庭園(八陣の庭)保存活用計画
- 岸和田市歴史的まちなみ保全地区 本町地区保全計画



個人や家庭

- 歴史的価値があるものを大切に
する



事業者・団体・地域など

- 歴史的価値があるものの保存を
支援する



行政

- 岸和田の歴史や文化財を保存・
活用する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 歴史的なものの価値を共有し、保存を進める

関連する 主な個別計画

- 岸和田城庭園(八陣の庭)保存活用計画
- 岸和田市歴史的まちなみ保全地区 本町地区保全計画

岸和田の次世代を
育むまち

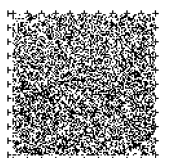
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

健康で自分らしく 生きられるまち

健康意識の向上とともに、介護予防が進められ、心身の健康が維持・増進している

- ① 健康意識の向上や重症化予防など疾病予防を進める

医療サービスを受ける環境が整うとともに、緊急時にも医療が受けられる状態になっている

- ① 医療体制の充実により、必要なときに必要な医療が受けられる環境づくりを進める

平和で、多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、自分らしく生活できる環境が整っている

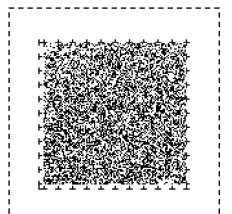
- ① 個々の人権や多様な価値観の尊重意識を広げるとともに、多文化に触れる機会を創出し、他者理解を促進する
- ② 男女共同参画の取組を進める
- ③ みんなが使いやすいデザインに配慮した施設環境をつくる
- ④ 平和への意識向上を進める

地域で支えあい、助けあえる関係が築けている

- ① 常日頃から、地域の中でお互いに助けあえる地域共生社会の関係づくりを進める

介護や医療保険、障害者支援の福祉サービスなど、誰もが必要な支援を受け安心できている

- ① その人らしい自立した生活につながる介護サービスを提供する
- ② 医療保険制度を適切に運営する
- ③ 高齢者が自分らしく生活できる環境づくりを進める
- ④ 障害者が自分らしく生活できる環境づくりを進める
- ⑤ 生活困窮者などに必要な支援を行う
- ⑥ 住宅困窮者に居住支援を行う



個別目標 健康意識の向上とともに、介護予防が進められ、
心身の健康が維持・増進している

個別目標の
方向性

① 健康意識の向上や重症化予防など疾病予防を進める

現状と課題

高齢化の進展に伴い、社会保障費の増大への対応や、個人の生活の質の向上などの重要性が高まっています。

健康の維持・増進には、運動機会の確保や栄養バランスのよい食生活などをはじめとした正しい生活習慣を身につけることが大切です。

また、日本人の死亡原因の約3分の1を占める悪性新生物(がん)に関して、本市の検診受診率は低い状況です。

生活習慣病やストレスの心身への影響などといった昨今の疾病構造の変化も踏まえ、市民の健康意識の向上とともに、疾病の早期発見・予防を進めることが求められています。

みんなでめざそう値

指標A がん検診の受診率

胃がん	3.5%	▶ 増加
肺がん	10.3%	▶ 増加
大腸がん	8.6%	▶ 増加
乳がん	11.1%	▶ 増加
子宮頸がん	10.3%	▶ 増加

(2021年) (2025年)

指標B 規則正しい食生活を心がけている
市民の割合

基準値及び目標値は後年度に設定

特に関連する
SDGs
目標





市民一人ひとりが健康に対する意識を高め、
心身ともに健康な状況が保たれていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- ウォーキングなどの運動機会を確保し、健康管理・健康増進に努める
- 正しい食生活を心がける
- 地域の健康づくりの取組に積極的に参加する
- 健康づくりなどの情報を積極的に収集する
- かかりつけ医をもつ
- 健康診断や予防接種を受け、疾病の早期発見や予防に努める
- 家族や周りの人、専門機関に相談する



事業者・団体・地域など

- 健康増進イベント等を開催し、協力する
- 地域でラジオ体操やごみ拾いなどの取組を組み合わせ、異世代交流しつつ健康づくりができる機会をつくる
- 健康増進に関する定期的な取組の推進と周知活動を行う
- 医療機関や薬局は、患者が普段から気軽に相談できる環境を整える



行政

- データの利活用や情報発信などにより、市民の健康意識を高め、自主的な健康づくりを支援する
- 薬物防止や自殺予防など心の健康管理を支援する
- 介護予防の適切な推進を図る
- 疾病などの早期発見と予防を推進する
- 国民健康保険制度を適正かつ安定的に運営する(P.59再掲)
- 高齢者の医療制度を適正かつ安定的に運営する(P.59再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 健康づくりを通して、地域でつながれる仕組みをつくる

関連する 主な個別計画

- 岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画
- 岸和田市いのち支える自殺対策計画

岸和田の次世代を
育むまち

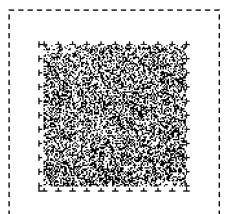
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 医療サービスを受ける環境が整うとともに、 緊急時にも医療が受けられる状態になっている

個別目標の 方向性

① 医療体制の充実により、 必要なときに必要な医療が受けられる環境づくりを進める

現状と課題

市民の健康を維持・増進させるためには、健康増進、疾病予防、治療・入院といった一般的な保健医療サービスに加え、救急医療も含めた医療サービスが必要なときに必要な人へ提供できる状態を保つことが重要です。

本市においては、市立岸和田市民病院をはじめ、多くの病院や一般診療所、歯科診療所があり、引き続き、それぞれの機能に応じた役割を果たしつつ、医療機関同士で連携していくことが必要です。

高齢化の進行に伴い、今後ますます介護・医療サービスの需要が高まる中、関係機関との連携強化、医療機器の高度化や高度専門医療施設の整備・拡充、かかりつけ医制度の推進等、市民がより安心して医療サービスを受けられるよう、地域医療体制を確立することが求められます。

また、救命率を高めるためにも、市民による救急車の適正な利用や、市民の応急処置の知識や技術の習得の推進が必要です。

みんなでめざそう値

指標A かかりつけ医をもっている市民の割合

67.5% ▶ 70.0%

(2022年) (2026年)

指標B 軽症者(入院を必要としない)の
救急車による搬送割合

57.6% ▶ 45.1%

(2021年) (2025年)

指標C 市民病院の救急患者応需率*

70.5% ▶ 80.0%

(2021年) (2025年)

指標D 市民病院の紹介患者数

9,083人 ▶ 11,000人

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

応需率

救急病院における、救急車(患者)の受け入れ率のこと

地域医療体制が整い、夜間や休日でも安心して医療が受けられる体制の整備をめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- かかりつけ医をもち、まずはかかりつけ医に相談する
- 応急処置などを学び、救急時の対応に努める
- 救急車を適正に利用する



事業者・団体・地域など

- 地域の医療機関は、市民病院など高度医療機関と連携する
- 薬局と医療機関は、連携を強化する
- 医療機関や薬局は、患者が普段から気軽に相談できる環境を整える(P.49再掲)



行政

- 二次医療機関(地域の基幹病院)としての市民病院の診療体制を整える
- 常に、必要な医療サービスを必要ときに提供できる地域医療の体制を整える
- いざというときに応急処置や救急医療が受けられる体制を整える
- 自立した生活を支える障害福祉サービスなどを提供する(P.61再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 健康に不安を抱える人に対して、医療に関する専門機関や専門職を紹介する

関連する 主な個別計画

- 岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画
- 市立岸和田市民病院経営強化プラン

岸和田の次世代を
育むまち

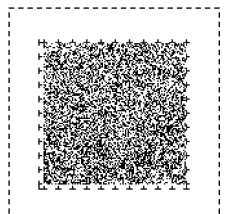
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 平和で、多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、 自分らしく生活できる環境が整っている

個別目標の 方向性

① 個々の人権※や多様な価値観の尊重意識を広げるとともに、 多文化に触れる機会を創出し、他者理解を促進する

現状と課題

年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、すべての人々が寛容性をもって、お互いを認めあうことが大切です。

そして、一人ひとりがかけがえのない存在として尊重される、差別のない多様性を尊重した社会の実現が求められています。

※様々な人権課題：女性、子ども、高齢者、障害のある人、被差別部落出身者、地域で暮らす外国籍の人、HIVや新型コロナウイルス感染症など様々なウイルスの感染者、ハンセン病患者・元患者、刑を終えて出所した人、犯罪被害者、ホームレスの人、性的マイノリティ、労働者、被差別の当事者の家族の人権及びインターネットを悪用した人権侵害や北朝鮮当局による人権侵害問題など

みんなでめざそう値

指標A 人権研修(市民の集い、人権問題専門講座等)への参加者のうち、参加前後で意識が変わった人の割合

94.7% ▶ 100%

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 男女共同参画の取組を進める

現状と課題

職場や家庭などにおいては、性別による固定的な役割分担意識や、それに基づく社会の制度や慣習が依然として残っています。

このような状況を改善するため、性別による固定的な役割分担意識にとらわれず、自らの意思によって個性と能力が発揮できる男女共同参画社会の早期実現が求められています。

みんなでめざそう値

指標A 審議会等の女性委員の割合

31.7% ▶ 40%以上60%以下

(2022年) (2026年)

指標B えるばし認定事業者*数

0事業者 ▶ 増加

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

マイノリティ
「少ないこと」や「少数派」のこと

フリースクール

不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設のこと



年齢や性別、国籍、障害の有無などによる差別がなく、お互いを大切にしたい、誰もがその人らしく暮らせるまちをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 地域の人にあいさつや声がけを行い、関係性を築く
- 様々なマイノリティ*への理解を深める
- 他国の文化や価値観などを知り、理解を深める
- 国際交流のイベントなどに参加する
- 新しい人権問題などに関心をもつ



事業者・団体・地域など

- 多様性を理解・尊重した事業所・団体運営を行う
- 事業者は、多様性を踏まえた製品やサービスを提供する
- 子ども食堂やフリースクール*など、みんなが集える場を提供・支援する



行政

- 多様な価値観の醸成のための機会を創出するとともに、人権問題の解決を図るための相談体制を整える
- 新たな人権問題の解決を図るための検討を進め、共生のまちづくりを推進する
- 多文化に触れる機会や場を創出するなど、他者理解を促進する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 国際交流などを通じたつながりを創出し、相互理解を促進する
- 様々なマイノリティや人権問題などの理解促進のための研修会や啓発活動、相談業務などを実施する

関連する 主な個別計画

- 岸和田市人権施策基本方針
- 岸和田市人権施策推進プラン

- 文化 花 咲かそう推進プランー岸和田市文化振興計画一

想定される公民の役割



個人や家庭

- 性別にかかわらず、子ども自身の個性や自主性を尊重した子育てをする
- 性別による固定的な役割分担意識にとらわれず、家事や育児、介護などを互いに協力して行う
- DV*についての理解を進め、お互いを尊重し、相手を思いやる



事業者・団体・地域など

- 採用、配置、昇進等の場面で、男女格差を解消し、個性や能力が十分に発揮できる環境を整える
- ワーク・ライフ・バランスがとれた働き方を推進する
- 意思決定の場へ男女がともに参画し、活力あるまちづくりを行う
- DV被害者を支援する



行政

- あらゆる分野において男女がともに参画できる環境を整えるとともに、男女共同参画の意識づくりのため学習機会の提供や情報発信を行う
- DVの予防啓発とDV被害者の支援を行う

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- DVなどで困っている人に対して、必要な機関等を紹介する

関連する 主な個別計画

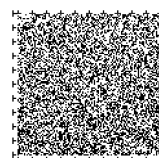
- 第4期さしわだ男女共同参画推進プラン

えるぼし認定事業者

女性の活躍推進に関する取組の実施状況が優良である等の一定の要件を満たし、厚生労働大臣により認定された事業者のこと（「えるぼし」は、女性活躍推進法に基づく認定マークのこと）

DV

「Domestic Violence（ドメスティック・バイオレンス）」の頭文字をとったもので、配偶者や同居している恋人から受ける暴力のこと（身体的暴力だけでなく、精神的暴力、経済的暴力などを含む）



Uni-Voice

個別目標 平和で、多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、 自分らしく生活できる環境が整っている

個別目標の 方向性

③ みんなが使いやすいデザインに配慮した施設環境をつくる

現状と課題

近年、まちをユニバーサルデザイン*化する考え方が浸透してきており、ノーマライゼーション*の理念に基づいた、市民誰もが地域の中で当たり前前に暮らすことができる社会が求められています。

また、心理的・精神的な障壁を取り除くことに加え、道路や建物などにおいては物理的な障壁も取り除くなど、ユニバーサルデザイン化された社会の構築が必要です。

みんなでめざそう値

指標A 駅と主要施設を結ぶ道路等の
バリアフリー化率

31.0% ▶ 32.6%

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

④ 平和への意識向上を進める

現状と課題

二度にわたる世界大戦を経て、人類は平和の尊さを学びましたが、戦後、我が国においては暮らしが豊かになるとともに、平和であることが当たり前の生活を送っています。

しかし、世界では、国際テロや紛争などの脅威にさらされ、安寧とした日常を送ることのできない人々も多くいます。

平和の根底にあるのは、他者理解であることとその重要性を市民一人ひとりが再確認するとともに、相互に思いやりをもって平和に暮らせる社会の構築・維持が必要です。

みんなでめざそう値

指標A 平和は大切だと感じている
市民の割合

95.6% ▶ 97.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

ユニバーサルデザイン

年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること

ノーマライゼーション

障害者や高齢者が他の人々と等しく生きられる社会や環境の実現をめざす考え方のこと



年齢や性別、国籍、障害の有無などによる差別がなく、お互いを大切にしたい、誰もがその人らしく暮らせるまちをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 点字ブロックなどを利用する人に配慮した行動をとる
- 住宅などを新築・改築する際には、ユニバーサルデザインに配慮する



事業者・団体・地域など

- 事業者は、店舗などを新築・改築する際には、ユニバーサルデザインに配慮する
- 事業者は、施設などのバリアフリー化を進めるとともに、バリアフリー情報を発信・提供する



行政

- 公共施設のユニバーサルデザイン化を推進する
- 住宅等のユニバーサルデザイン化を支援する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- ユニバーサルデザインに関心がある人や団体と、ユニバーサルデザインやバリアフリーなどに関する専門知識のある人や団体とをつなぐ

関連する 主な個別計画

- 第5次岸和田市地域福祉計画
- “新・岸和田”づくり～都市計画マスタープラン～
- 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【バリアフリー基本構想編】



個人や家庭

- 思いやりをもって人と接する
- 戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさなどについて知識をもつ
- 平和学習会などに参加する
- 平和の尊さを子どもたちに伝える



事業者・団体・地域など

- 子どもたちに平和に関する学びの場を提供する



行政

- 平和の尊さを学べる機会や場をつくる
- 戦争被害者などの福祉の推進を図る

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 平和に関する講演や他者理解の推進に関する取組を周知する

関連する 主な個別計画

岸和田の次世代を
育むまち

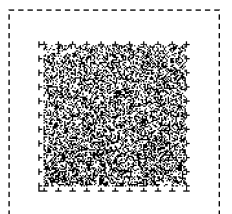
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 地域で支えあい、助けあえる関係が築けている

個別目標の 方向性

① 常日頃から、地域の中でお互いに助けあえる 地域共生社会の関係づくりを進める

現状と課題

近い将来訪れる超高齢社会や貧困問題等を背景に、生活上の支援を必要とする人々が増加し、その支援ニーズは多様化・複雑化しています。

一方、本市においても核家族化や都市化の進行により、市民相互のつながり・地域のつながりは希薄化しつつあります。

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するためには属性を問わない重層的な支援が必要であり、市民・事業者・行政などがともに手を取りあい、地域の中でお互いにつながり、助けあえる地域共生社会の実現が求められています。

みんなでめざそう値

指標A 困ったときに近くに相談できる人や場所がある市民の割合

35.0% ▶ 38.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

8050問題

ひきこもりの子をもつ家庭が高齢化し、50代の中高年のひきこもりの子を、80代の親が面倒見るケースが増えているという社会問題のこと

日ごろから地域のつながりがあり、お互いに助けあえる関係になっていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 悩みごとや困りごとがあれば、身近な人や地域の人、民生委員・児童委員をはじめ専門機関へ相談する
- 近隣との交流を深め、つながりをつくる
- 見守り活動やリビング活動など、地域の福祉活動に積極的に参加し、地域の取組に触れる
- ひきこもりや8050問題*など、複雑化する福祉課題への理解を深める



事業者・団体・地域など

- 事業所や団体は、各種専門職を採用し、支援の幅を広げる
- 各団体の取組を整理する
- 事業者や団体による交流を深め、つながりをつくり支援の幅を広げる
- 民生委員・児童委員などをはじめ、支援をする人同士のネットワークを構築する
- 地域で気軽に集える場をつくる



行政

- 困ったときに、地域の中でお互いに助けあえる関係づくりを支援する
- 属性にかかわらない重層的な支援体制を構築する
- 在宅での生活を支援する取組を推進する
- 子育て家庭が安心して相談できる場や機会の提供、子育て情報の発信を行う(P.21再掲)
- 児童虐待に関する相談や早期発見・早期対応等の体制を強化するなど、児童福祉に関する取組を支援する(P.29再掲)
- 学校と地域が一体となって、地域の教育力の向上を図る(P.33再掲)
- 家族介護者を支援する(P.59再掲)
- 地域のコミュニティ活動を支援するとともに、市民活動に参加しやすい環境づくりを進める(P.101再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 子育て世代同士の交流や多世代交流ができる場や機会をつくる
- 子育て情報や生活情報の発信を推進する
- 様々な福祉課題の実態を把握し、支援を推進する

関連する 主な個別計画

□ 第5次岸和田市地域福祉計画

岸和田の次世代を
育むまち

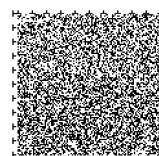
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 介護や医療保険、障害者支援の福祉サービスなど、 誰もが必要な支援を受け安心できている

個別目標の 方向性

① その人らしい自立した生活につながる介護サービスを提供する

現状と課題

超高齢社会の到来や長寿化の進展により、介護を必要とする人やその介護ニーズはますます増大しています。

一方、少子化等による介護者の減少や社会保障費の負担増加、家族介護者が抱える問題の多様化など、社会的な問題が顕在化しています。

そのような中、介護の必要な人がその人らしい自立した生活を送るためのより一層の支援が必要とされています。

みんなでめざそう値

指標A

介護サービス、介護予防サービス及び総合事業の利用率

79.8% ▶ 増加

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 医療保険制度を適切に運営する

現状と課題

国民健康保険や後期高齢者医療制度は、国民皆保険制度の基礎として重要な役割を果たしています。

しかし、高齢層の被保険者の増加や医療の高度化等に伴う医療費の増大などにより、厳しい運営状況になることが想定されます。

今後も安定的な制度運営を確保するため、適切な保険料収納対策や医療費の適正化などが求められています。

みんなでめざそう値

指標A

国民健康保険料の収納率

94.5% ▶ 95.9%

(2021年) (2025年)

指標B

後期高齢者医療保険料の収納率

99.75% ▶ 99.79%

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

ジェネリック医薬品(後発医薬品)

新薬の特許期間満了後、厚生労働省の認可のもとで製造・販売される、先発医薬品と主成分・効能が同一とされている低価格な医薬品のこと

セルフメディケーション

自分自身の健康に責任をもち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること

介護保険制度や医療保険制度が適正かつ安定的に運営されるとともに、支援が必要な高齢者や障害者、生活困窮者などが、地域社会のサポートを得て安心して日常生活を送れる環境をめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 自分に適した介護サービスの提供を受ける
- 介護技術や介護方法を学ぶ
- 介護保険料を納付する
- 悩みごとや困りごとがあれば、身近な人や地域の人、民生委員・児童委員をはじめ専門機関へ相談する(P.57再掲)



事業者・団体・地域など

- 事業者は、利用者にあったサービスを提供する
- 事業者は、サービスの提供を通して、利用者の生きがいづくりに貢献する



行政

- 高齢者の自立と重症化予防につながる介護サービスの提供を支援し、介護保険制度を適正かつ安定的に運営する
- 家族介護者を支援する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 家族介護者などの支援を進める
- 高齢者やその家族、地域住民からの相談を幅広く受け付け、各種サービスにつなげる

関連する 主な個別計画

- 岸和田市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画

想定される公民の役割



個人や家庭

- 医療保険を適正に利用する
- ジェネリック医薬品(後発医薬品)*の利用やセルフメディケーション*に取り組む
- 国民健康保険料や後期高齢者医療保険料を納付する



事業者・団体・地域など

- 医療機関や薬局などは、適正な医療保険制度の運営に協力する
- 医療機関や薬局は、患者が普段から気軽に相談できる環境を整える(P.49再掲)



行政

- 国民健康保険制度を適正かつ安定的に運営する
- 高齢者の医療制度を適正かつ安定的に運営する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 医療制度について情報共有し、適正な運営につながる取組を進める
- 啓発活動などの取組を連携して進める

関連する 主な個別計画

- 第2期岸和田市国民健康保険保健事業実施計画
(岸和田市国民健康保険第2期データヘルス計画)

岸和田の次世代を
育むまち

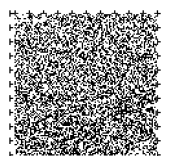
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 介護や医療保険、障害者支援の福祉サービスなど、 誰もが必要な支援を受け安心できている

個別目標の 方向性

③ 高齢者が自分らしく生活できる環境づくりを進める

現状と課題

超高齢社会の中、高齢者の介護を高齢者が行うという老々介護や、障害者の介護を高齢者が行う老障介護などへの支援のあり方が問われています。

また、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしく、その有する能力に応じて自立した生活を送ることができるよう支援することが必要です。

そのため、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援を包括的に確保する地域包括ケアシステムを、より一層深化・推進することが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 認知症サポーター養成人数(累計)

17,837人 ▶ 増加

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

④ 障害者が自分らしく生活できる環境づくりを進める

現状と課題

障害者が、自分らしく、地域社会で自立した日常生活を営むことができるよう、必要な障害福祉サービスの提供や地域社会でのサポートの充実が求められています。

また、事業者や団体、地域だけでは支えきれない暮らしの場の支援体制を整えることが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 訪問系福祉サービスの利用量
(月平均利用時間)

15,428時間/月 ▶ 増加

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



介護保険制度や医療保険制度が適正かつ安定的に運営されるとともに、支援が必要な高齢者や障害者、生活困窮者などが、地域社会のサポートを得て安心して日常生活を送れる環境をめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 普段からあいさつするなど、地域との交流を深める
- リビング活動など、地域の取組に参加する
- 地域の見守り活動に参加する
- 認知症や高齢者がかかりやすい病気、高齢者の身体能力の変化などについての知識や理解を深める
- 国民年金を納付する



事業者・団体・地域など

- 事業者は、地域と連携し、買い物支援を実施する
- 事業者は、専門機関や行政と連携して、高齢者をサポートする
- 高齢者福祉に関する団体や事業者同士の連携を進める
- 地域でのつながりを創出・維持する
- 地域における情報収集や実態把握に努める



行政

- 地域での生活を支援する
- 在宅生活が困難な高齢者を支援する
- 高齢者が経済的に自立できる環境を整える
- 高齢者の自立と重症化予防につながる介護サービスの提供を支援し、介護保険制度を適正かつ安定的に運営する(P.59再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 専門職間での連携や情報共有を強化する
- 高齢者の困りごとなどに対して、地域と連携し、サポートを行う
- 高齢者をサポートする団体等と地域の高齢者をつなぐ

関連する 主な個別計画

- 岸和田市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画

想定される公民の役割



個人や家庭

- 普段からあいさつするなど、地域との交流を深め、相談しやすい環境をつくる
- 地域でどんな人が困りごとを抱えているのかなど、情報収集する
- 悩みごとや困りごとがあれば、身近な人や地域の人、民生委員・児童委員をはじめ専門機関へ相談する(P.57再掲)



事業者・団体・地域など

- 団体は、各種専門職を採用し、支援の幅を広げる
- 地域で介護者を支援する
- 地域で障害者が自立した生活を送れるようにサポートする
- 障害の有無にかかわらず、子ども同士が交流できる場をつくる



行政

- 自立した生活を支える障害福祉サービスなどを提供する
- 重い障害によって生じる経済的な負担を軽減する
- 医療的ケア児への支援を強化する
- 情報弱者への健康情報などの発信を工夫する
- 多様な価値観の醸成のための機会を創出するとともに、人権問題の解決を図るための相談体制を整える(P.53再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 生涯学習として、障害者学級の運営・支援を行う
- 地域の人に参加しやすい集いの場をつくる
- 利用者とサービスをつなげる取組を進める

関連する 主な個別計画

- 第5次岸和田市障害者計画
- 第2期岸和田市障害児福祉計画
- 第6期岸和田市障害福祉計画

岸和田の次世代を
育むまち

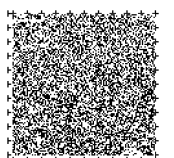
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 介護や医療保険、障害者支援の福祉サービスなど、 誰もが必要な支援を受け安心できている

個別目標の 方向性

⑤ 生活困窮者などに必要な支援を行う

現状と課題

平成28年度以降、本市における生活保護の状況については、保護世帯数・保護率ともに減少傾向にあります。さらなる高齢化の進展やその時の社会経済状況の変化により、今後、生活困窮者が増加することも想定されます。

今後もより一層、必要な人が必要な支援を受け、適切なサービスが提供されることが求められています。

そのため、引き続き、生活困窮者に対する自立相談支援機関の窓口の周知を行うとともに、積極的な相談支援活動を進める必要があります。

みんなでめざそう値

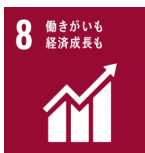
指標A

生活困窮相談支援プラン作成件数
(評価実施件数)のうち、支援により
生活困窮から変化が見られた割合

89.8% ▶ 91.0%

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

⑥ 住宅困窮者に居住支援を行う

現状と課題

性別、国籍、年齢、障害の有無などにかかわらず、誰もが住みやすい住環境の整備が必要です。

また、住宅困窮者に対しては、適切な住宅供給の支援を行うことが求められています。

みんなでめざそう値

指標A

岸和田市居住支援協議会による
居住支援件数

97件 ▶ 100件

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



介護保険制度や医療保険制度が適正かつ安定的に運営されるとともに、支援が必要な高齢者や障害者、生活困窮者などが、地域社会のサポートを得て安心して日常生活を送れる環境をめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 困りごとや悩みごとがあれば、地域の人や専門機関に相談する
- 経済的に自立できるように努める
- 生活保護制度や困窮者支援制度を適正に利用する
- 社会的に弱い立場となっている人を支援できるように、地域での関係づくりに努める



事業者・団体・地域など

- 地域で支えあいの活動を推進する
- 困りごとなどを相談しやすい地域での関係づくりに努める



行政

- 生活に困窮する市民が安定した生活を送れるよう経済的支援や自立支援を行う

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 支援を必要としている人に、適切にサービスが提供されるようつなぐ

関連する 主な個別計画

- 第5次岸和田市地域福祉計画



個人や家庭

- 住まいを大切にする
- 住宅に困窮したときは、行政などに相談する



事業者・団体・地域など

- 所有する建物の整備や維持管理を適正に行う
- 住宅供給のサポートを行う



行政

- 公営住宅等の供給を行い、暮らしの場を支える
- 地域での生活を支援する(P.61再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 地域の住宅の情報を共有する

関連する 主な個別計画

- 住まうビジョン・岸和田

岸和田の次世代を
育むまち

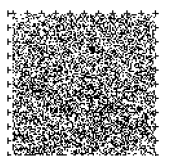
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

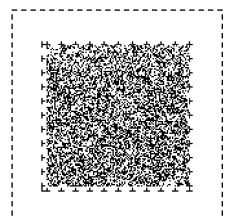
安全で安心して 暮らせるまち

事故や犯罪などに巻き込まれない生活が送れている

- ① 交通マナーの向上や交通事故を防ぐ環境づくりを進める
- ② 空き家対策や建築物の安全性の確保を行うとともに、良好な住環境の創出を進める
- ③ 防犯意識の向上とともに、犯罪防止につながる環境づくりを進める
- ④ 安心してサービスや物の購入などの消費行動が行える環境づくりを進める

災害などの非常時への準備が進められ、強靱な環境になっている

- ① 災害被害を最小限にする強靱な基盤の整備を計画的に進める
- ② 発災時にみんなが迅速かつ柔軟に対応できる環境づくりを進める
- ③ 火災予防や火災被害を最小限にする取組を進める



個別目標 事故や犯罪などに巻き込まれない生活が送れている

個別目標の 方向性

① 交通マナーの向上や交通事故を防ぐ環境づくりを進める

現状と課題

最新技術を活用した自動車の安全性能の向上などにより、交通事故件数は全国的に減少傾向にあります。

また、先端技術を活用した新しい移動手段が生み出され、生活がより便利になる一方、それに応じたマナーやルールの啓発・徹底が必要となります。

本市においても、引き続き、交通マナーの向上や交通事故を未然に防ぐ環境づくりが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 交通事故(人身事故+物損事故)の年間発生件数

5,173件 ▶ 減少
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 空き家対策や建築物の安全性の確保を行うとともに、 良好な住環境の創出を進める

現状と課題

近年、人口減少や住宅・建築物の老朽化などに伴って空き家が増加しており、住民の生活環境に影響を及ぼすことが懸念されています。

本市においても、引き続き、空き家の予防や発生抑制、適正管理が行われるよう取り組むとともに、空き家の利活用を推進することが求められています。

また、完了検査*の受検を促したり、違反建築物の是正を指導したりすることなどにより、建築物の安全性を確保することが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 空家等に対する指導等により改善した件数(累計)

328件 ▶ 570件
(2021年) (2025年)

指標B 建築確認申請の完了検査受検率

92.4% ▶ 100%
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説 完了検査

建築基準法に基づき、工事完了後に建築確認を受けた図面のとおり施工されているかなどについて検査を行うこと



事故や犯罪、消費者トラブルなどに巻き込まれることなく、誰もが安心して日常生活が送れることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 交通ルールやマナーを守る
- 路上で遊んだり、自転車などを放置しない
- 交通安全活動に積極的に参加する
- 高齢者の自主的な免許返納を支援する
- 子どもの安全見まもり隊に参加するなど、地域の子どもと顔をあわせた交流をする(P.27再掲)



事業者・団体・地域など

- 交通安全活動を実施する
- 事業者は、高齢者の自主的な免許返納を応援するサービス・特典を提供する



行政

- 交通ルールやマナー、交通安全意識の高揚と対策を図る
- 交通事故を未然に防ぐために必要な空間や施設等を整備する
- 地域での生活を支援する(P.61再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 交通安全協会などと連携し、交通に関する情報収集とSNSを活用した情報発信を行う

関連する 主な個別計画

- “新・岸和田”づくり～都市計画マスタープラン～
- 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【基本計画編ほか】

岸和田の次世代を
育むまち

健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち

想定される公民の役割



個人や家庭

- 空き家を放置する危険性を理解する
- 所有する空き家などを確認し、適切に管理・利活用する
- 所有する建物の管理を適切に行う



事業者・団体・地域など

- 事業者は、空き家を活用し、店舗や事務所などの設置、サービス提供を行う
- 事業者は、建築や開発行為の際、法令を遵守し、地域の環境を考慮する



行政

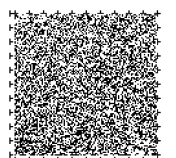
- 危険な空き家の情報を把握するとともに、空き家の管理・利活用を支援する
- 建築物の安全性を確保する
- 良好な住環境の創出を促進する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 空き家の利活用に向けたマッチングを推進する

関連する 主な個別計画

- 住まうビジョン・岸和田
- 岸和田市マンション管理適正化推進計画
- 空家総合戦略・岸和田



Uni-Voice

個別目標 事故や犯罪などに巻き込まれない生活が送れている

個別目標の 方向性

③ 防犯意識の向上とともに、 犯罪防止につながる環境づくりを進める

現状と課題

近年の全国における刑法犯認知件数は、戦後最少のペースで推移しています。一方で、刑法犯認知件数のうち、窃盗がその7割以上を占めるなど、住民に身近なところで犯罪が発生しています。

本市においても、引き続き、家庭・地域・行政などの関係機関が一体となった防犯体制の確立を図り、地域社会の犯罪抑止機能を高めていくことが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 市内における刑法犯罪の認知件数

全体 1,299件 ▶ 減少

うち窃盗 943件 ▶ 減少

うち詐欺 64件 ▶ 減少

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

④ 安心してサービスや物の購入などの消費行動が行える 環境づくりを進める

現状と課題

近年、消費者を取り巻く社会情勢は、超高齢社会の到来、成人年齢の引下げ、高度情報化社会、国際化の進展などによって大きく変化しています。

そして、これらの社会変化に伴い、発生するトラブルの内容が複雑化したり、低年齢の人がトラブルにあう傾向がみられます。

引き続き、市民が安全安心で豊かな消費生活を送ることができるよう、被害防止の啓発や相談体制の充実など、様々な取組を進めることが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 消費者トラブル相談の終結割合

99.1% ▶ 99.1%

(2021年) (2025年)

指標B この1年間に何らかの消費者トラブルにあった市民の割合

4.1% ▶ 3.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標





事故や犯罪、消費者トラブルなどに巻き込まれることなく、誰もが安心して日常生活が送れることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 防犯知識の習得や防犯グッズの活用などを行い、窃盗や特殊詐欺など、身近な犯罪に対する防犯意識を高める
- 地域の防犯活動に参加する



事業者・団体・地域など

- 地域で防犯意識の向上や、防犯活動を実施する



行政

- 市民一人ひとりの防犯意識を高め、犯罪の防止に取り組む
- 地域の自主活動を支援する

各主体をつなぐ取組や
公民連携の取組例

- 市民・行政などが連携し、防犯意識を啓発するための情報発信を行う

関連する
主な個別計画

岸和田の次世代を
育むまち

健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち

想定される公民の役割



個人や家庭

- 消費生活に必要な正しい知識を習得する
- 消費者トラブルに注意し、適切な買い物をする



事業者・団体・地域など

- 事業者は、正確で消費者がわかりやすい情報を提供する
- 事業者は、適切に職員を育成するとともに、消費者に丁寧な説明を心がける



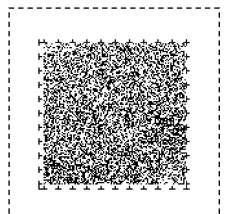
行政

- 安全な消費生活を送れるよう、情報提供や啓発、相談体制を充実させる

各主体をつなぐ取組や
公民連携の取組例

- 消費者トラブルの情報を共有し、安全な消費につながる取組を進める

関連する
主な個別計画



Uni-Voice

個別目標 災害などの非常時への準備が進められ、強靱な環境になっている

個別目標の 方向性

① 災害被害を最小限にする強靱な基盤の整備を計画的に進める

現状と課題

近い将来発生するといわれている南海トラフ巨大地震など、大規模な自然災害等が発生しても地域経済社会への被害を最小限にとどめ、迅速に回復する「強さ」と「しなやかさ」を備えた強靱な地域をつくりあげることが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 市有建築物の耐震化率
92.1% ▶ 95.0%
(2021年) (2025年)

指標B 無料耐震診断及び既存建築物耐震診断補助制度による耐震診断実施戸数(累計)
914戸 ▶ 1,110戸
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 発災時にみんなが迅速かつ柔軟に対応できる環境づくりを進める

現状と課題

我が国は、台風や大雨、土砂災害、地震などの自然災害を受けやすい環境にあり、本市においても、平成30(2018)年の台風21号の記録的な暴風による被害が記憶に新しいところです。

一方、時間の経過とともに、市民の防災意識が薄まりつつあり、平常時からの意識啓発や準備、いざという時の地域で助けあえる仕組みづくりなど、災害に備えた取組を行うことが必要です。

そのためには、市民や地域、行政などが協力しあって取り組むとともに、海から山までという地理的な特性を踏まえて、それぞれの地域にあった取組や、お互いに助けあえる仕組みなどを構築することが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 災害の際の非常持ち出し品や食糧などを準備している市民の割合
40.4% ▶ 43.0%
(2022年) (2026年)

指標B 防災福祉コミュニティの数
71組織 ▶ 83組織
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



地震や台風などの災害が発生しても、被害を最小限にする体制や対応力が整っていることをめざします
また、火災予防を進め、万が一発生しても被害を最小限にする体制が整っていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 耐震性に不安がある建物の耐震診断を実施し、必要に応じて耐震改修や建替えをするなど、防災対策を行う



事業者・団体・地域など

- 耐震性に不安がある建物の耐震診断を実施し、必要に応じて耐震改修や建替えをするなど、防災対策を行う



行政

- 自然災害などに備え、災害に強い社会基盤の整備を進める
- 地震による建物の被害を最小限に抑えるための整備を進める
- 浸水被害を最小限にするための整備を進める

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 建物等の耐震化への取組や情報を共有する

関連する 主な個別計画

- 岸和田市国土強靱化地域計画
- 岸和田市市有建築物耐震化実施計画
- 岸和田市地域防災計画
- 岸和田市住宅・建築物耐震改修促進計画 第2期

想定される公民の役割



個人や家庭

- 防災訓練に参加するなど、積極的に防災知識を深め、災害に備える
- 地域や家庭で災害時の行動について相談する
- 非常持ち出し品や食糧などの備蓄を行う
- 普段から地域でコミュニケーションをとり、知識や経験、取組を共有する
- 有事の際には、避難指示に従い、迅速に行動する
- 有事の際には、相互に救援・救護活動を行う



事業者・団体・地域など

- 事業者は、BCP(事業継続計画)を作成する
- 事業者は、災害発生時の避難場所を提供する
- 事業者は、災害時に各企業の技術や専門性を活かせるよう企業間の連携を強化する
- 地域の特性にあった自主防災体制を整え、防災訓練を積極的に実施する
- 地域で日頃から危険箇所を把握する
- 地域で避難の際に支援が必要な高齢者や障害者などを把握する



行政

- 市民や地域の災害対応力を高める
- 災害対応に必要な施設や物資を適切に配置する
- 災害や武力攻撃事態などの危機事象の発生時に、情報発信をはじめ迅速に対応できる環境を整える
- 災害被害者の暮らしの復旧を進めるための支援を行う

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 多くの事業者や団体に向けて災害時における連携の強化を促す
- 市内の地域同士で助けあえる仕組みをつくる

関連する 主な個別計画

- 岸和田市地域防災計画
- 岸和田市避難行動要支援者支援プラン
- 岸和田市業務継続計画(BCP)
- 岸和田市国民保護計画

岸和田の次世代を
育むまち

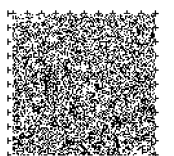
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



個別目標 災害などの非常時への準備が進められ、強靱な環境になっている

個別目標の
方向性

③ 火災予防や火災被害を最小限にする取組を進める

現状と課題

火災は、住宅などの財産だけでなく、命までも奪う危険性があります。

本市においては、引き続き、消防機能の充実を図るとともに、市民意識の啓発など火災予防の取組を進めることが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 人口1万人当たりの火災発生件数

2.2件 ▶ 2.0件

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



地震や台風などの災害が発生しても、被害を最小限にする体制や対応力が整っていることをめざします
また、火災予防を進め、万が一発生しても被害を最小限にする体制が整っていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 火災の原因となる日常行動に留意し、火災予防に努める
- 火災発生時には、迅速かつ的確に通報するとともに、初期消火活動や救命救急活動を行い、地域で助けあう
- 住宅の不燃化や住宅用火災警報器の設置・維持管理を行い、住宅火災による被害の軽減を図る



事業者・団体・地域など

- 防火設備の設置や定期的な消防点検を行う
- 有事の際の避難経路を複数確保する
- 地域で放火を防ぐ環境をつくる



行政

- 防火意識の醸成とともに、住宅・事業所・危険物施設の火災発生防止に努める
- 消防行政を円滑に推進するとともに、職員の人材育成により消防活動能力の向上を図る

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 地域での火災予防の取組に協力する

関連する 主な個別計画

岸和田の次世代を
育むまち

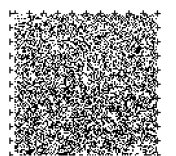
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

人と自然が共生した 住みよいまち

良好な生活環境とともに、まちが美しくなっている

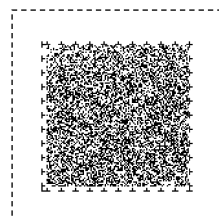
- ① 環境汚染などによる健康被害の発生を防ぐ
- ② 安全安心な水を安定的に供給する
- ③ まちの美化を進める

人が緑と触れあっている

- ① まちの緑の適正な保全とまちの緑化を進める
- ② 貴重な自然環境と生物多様性の保全・活用を進める

環境の負荷を減らした循環共生型の地域社会がつくられている

- ① ごみの減量や資源の有効活用など3R+Rを進める
- ② 省エネルギー化や再生可能エネルギーによる脱炭素を推進し、地球温暖化防止を進める



個別目標 良好な生活環境とともに、まちが美しくなっている

個別目標の 方向性

① 環境汚染などによる健康被害の発生を防ぐ

現状と課題

工場等への規制強化や下水道の整備が進み、良好な生活環境が形成されています。

しかし、今後、さらなる暮らしの利便性や住環境の質の向上に伴い、新たな物質等による大気汚染や水質汚濁が生じる懸念があるため、環境を汚染するおそれのある物質の監視が求められています。

また、悪臭や騒音などによる健康被害を防ぐため、一人ひとりが近隣環境に配慮し、行動することが必要です。

みんなでめざそう値

指標A

大気汚染に関する有害大気汚染物質、水質汚濁等に関する有害物質及びダイオキシン類に係る環境基準達成割合

92.1% ▶ 100%

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 安全安心な水を安定的に供給する

現状と課題

安全安心な水を安定的に供給するため、適正な浄水処理や水質管理の徹底、老朽化した水道施設の適正な維持管理・更新を進めるとともに、水道施設の耐震化が求められています。

みんなでめざそう値

指標A

有収率*

95.2% ▶ 95.0%以上を維持

(2021年) (2025年)

指標B

基幹管路等の耐震適合率

30.1% ▶ 34.8%

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

テレワーク

ICT技術を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと

有収率

給水する水量と料金として収入のあった水量との比率のこと



排出ガスによる大気汚染や、騒音・振動などへの対策が講じられるとともに、生活排水が適正に処理され、ポイ捨てごみや害虫被害などがない、清潔で衛生的なまちをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 普段から環境に配慮した生活を心がける
- 公共交通機関の利用や、徒歩・自転車などでの移動に努める
- 日常生活の中で悪臭や騒音、振動などにより、近隣環境を乱さないよう配慮する



事業者・団体・地域など

- 事業者は、自動車排出ガスなどの抑制につながる公共交通機関の利用やテレワーク*を推進する
- 事業者は、環境にやさしい製品を開発する
- 事業者は、悪臭や騒音、振動などの発生を抑える



行政

- 環境汚染の状況を把握し、改善指導や啓発を行う
- 幹線道路や市道の整備・管理を行い、適切な道路ネットワークを形成する(P.95再掲)
- 計画的で適正な土地利用や都市施設の配置を誘導する(P.97再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 環境保全活動団体等の活動を把握し、市民等とのマッチングを進める

関連する 主な個別計画

- 岸和田市環境計画
- “新・岸和田”づくり～都市計画マスタープラン
- 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【基本計画編ほか】

想定される公民の役割



個人や家庭

- 浄水処理された良質な水道水を積極的に利用する
- 水の大切さを理解し、水の無駄遣いをなくす



事業者・団体・地域など

- 浄水処理された良質な水道水を積極的に利用する
- 水の大切さを理解し、水の無駄遣いをなくす



行政

- 安全安心で信頼される水を供給する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 水道水の積極的な活用と、無駄遣いをなくす取組を進める

関連する 主な個別計画

- “新・岸和田”づくり～都市計画マスタープラン～
- 岸和田市水道事業ビジョン

岸和田の次世代を
育むまち

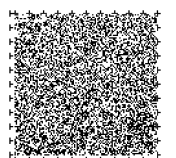
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 良好な生活環境とともに、まちが美しくなっている

個別目標の 方向性

③ まちの美化を進める

現状と課題

美化問題や公衆衛生においては、モラルの低下による不法投棄やポイ捨て、落書き、動物の糞害、また、生活排水及び工場排水等によって、身近な水路や河川、海の水質汚濁などが生じています。

このような中、市民一人ひとりが不法投棄やポイ捨てなどをしないよう心がけるなど、マナー向上の意識をもつことが重要です。特に、落書きなどを生じさせない積極的な取組を進めることが必要です。

また、下水道等の各処理施設における適正な処理機能を維持することなどにより、後世を担う子どもたちをはじめ、いつまでも安心して暮らすことができる、衛生的で美しいまちを持続することが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 生活排水適正処理割合
91.0% ▶ 93.0%
(2021年) (2025年)

指標B この1年間にゴミ拾いや美化活動を行ったことがある市民の割合
29.7% ▶ 33.0%
(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

浄化槽

微生物の働きによって、生活排水をきれいな水にする装置のこと



排出ガスによる大気汚染や、騒音・振動などへの対策が講じられるとともに、生活排水が適正に処理され、ポイ捨てごみや害虫被害などがない、清潔で衛生的なまちをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 一人ひとりがマナーを守り、不法投棄やポイ捨て、落書きなどをしない
- 普段の生活の中で、ごみ拾いを習慣化するなど、美化意識を向上させる
- ペットは責任をもって飼育する
- 生活排水に配慮する
- 浄化槽*の維持管理を徹底する
- 単独浄化槽から合併浄化槽への転換や下水道への接続を行う



事業者・団体・地域など

- 事業者は、ペーパーレスや脱プラスチックを推進する
- 地域や団体は、ごみ屋敷とその住人に対する支援をする
- 地域での清掃活動など、地域全体で環境美化に取り組む



行政

- 衛生的で清潔なまちをつくる
- 下水道整備を進めるとともに、合併浄化槽への転換や下水道接続に関する支援を行うなど、水質汚濁を防止する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 美化活動団体等の活動を把握し、市民等とのマッチングを進める

関連する 主な個別計画

- 岸和田市環境計画
- 岸和田市一般廃棄物処理基本計画
- 岸和田市生活排水処理基本計画
- 岸和田市・貝塚市新斎場整備基本計画

岸和田の次世代を
育むまち

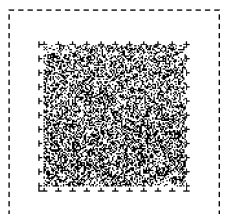
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 人が緑と触れあっている

個別目標の 方向性

① まちの緑の適正な保全とまちの緑化を進める

現状と課題

公園や緑地、水辺などは、市民にとって憩いや娯楽の空間となるほか、良好な都市景観の形成、都市環境の改善、都市防災力の向上、地域コミュニティの交流機会の創出、生物の生息地となるなど、様々な機能を有しています。

一方、公園や緑地等では十分な維持管理が困難になってきており、また、市街地やその周辺では住宅開発などによる都市化が進み、公園や緑地等の必要性が高まっているため、適正な維持管理や利便性の向上、街中でのみどりの創出が求められています。

みんなでめざそう値

指標A 施設緑地面積

352.26ha ▶ 360.07ha

(2021年) (2025年)

指標B 市民1人当たりの都市公園面積

9.1㎡ ▶ 10.0㎡

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 貴重な自然環境と生物多様性の保全・活用を進める

現状と課題

本市には、ブナ林をはじめとした豊かな自然があり、里山保全活動も積極的に行われています。

一方で、地球規模での気候変動や人間活動の発展により、世界各地で自然環境の減少や生物多様性の喪失が進行しつつあり、本市でもそれに適応したより一層の保全と活用が求められています。

みんなでめざそう値

指標A 自然資料館の内外で行われているイベント等への参加者数

2,674人 ▶ 4,500人

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

アドプト・ロード・プログラム

自分たちが身近に利用する道路を、自分たちの子どものように育てていくというコンセプトのもと、市民グループや企業等の賛同を得て、道路の一定区間の清掃や緑化などの美化活動を継続的に実施する活動のこと



自然を感じることができる貴重な市内のみどりが守られ、
緑地や公園、親水空間などが身近にあり、市民が快適に利用できる環境をめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- アドプト・ロード・プログラム*などの植栽活動に参加する
- 田畑やため池の適切な維持管理に努める
- 自宅や地域の緑化を推進する
- 公園などの公共空間をみんなが快適に利用できるよう努める



事業者・団体・地域など

- アドプト・ロード・プログラムなどの植栽活動に参加する
- 事業者は、事業所の緑化を進める
- 地域が一体となって緑化活動を行う



行政

- 市民の緑化意識の向上と地域緑化の推進を図る
- 市民に親しまれる親水空間や公園づくりを推進する
- 森林を適正に保全・活用する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 緑化活動団体等の活動状況を把握し、市民や事業者等とのマッチングを進める

関連する 主な個別計画

- 岸和田市みどりの基本計画
- 岸和田市環境計画



個人や家庭

- 自然環境に配慮した生活を送る
- 積極的に環境保全活動へ参加する
- 自然を体験し、学ぶことができるイベントなどに参加する
- 自然環境や生物多様性などに関する知識を深める



事業者・団体・地域など

- 自然環境に配慮した事業や活動を行う
- 自然環境や生物多様性について学ぶ機会を創出する
- 身近な地域での環境保全活動を行う
- ボランティアや資金提供など、様々な形で環境保全につながる活動を支援する



行政

- 市内にある貴重な自然環境を保全するとともに、生物多様性の保全につながる活動を支援する
- 水と緑をつなぐネットワークづくりを推進する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 自然環境保全活動団体等の活動状況を把握し、市民や事業者等とのマッチングを進める

関連する 主な個別計画

- 岸和田市生物多様性地域戦略2014
- 岸和田市みどりの基本計画
- 和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画

岸和田の次世代を
育むまち

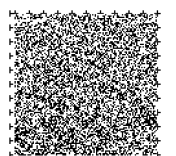
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 環境の負荷を減らした循環共生型の地域社会がつけられている

個別目標の 方向性

① ごみの減量や資源の有効活用など3R+R※を進める

現状と課題

現代の大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済システムにより、市民の暮らしは便利で豊かになりましたが、地球環境に大きな負荷をかける結果となっています。

限りある資源を大切に、引き続き「3R」の推進を行うとともに、新たな「R」にも配慮しながら、市民一人ひとりが身近な取組を進めていくことが求められています。

※これまでの3Rとともに、新たなRに取り組む視点を含めて「3R+R」と表現しています。

3R…Reduce/リデュース：発生抑制、Reuse/リユース：再使用、Recycle/リサイクル：再生利用

新たなR…Refuse/リフューズ：断る、Renewable/リニューアブル：再生可能な資源に替えること など

みんなでめざそう値

- 指標A リサイクル率 12.0% ▶ 14.8%
- 指標B 市民1人1日当たりの一般家庭系ごみの排出量 409.3g ▶ 減少
- 指標C 事業系ごみの年間排出量 29,699t ▶ 減少
<数値はいずれも 2021年▶2025年>
- 指標D ごみの減量化やリサイクルに取り組んでいる市民の割合 75.4% ▶ 78.0% (2022年▶2026年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 省エネルギー化や再生可能エネルギーによる脱炭素を推進し、地球温暖化防止を進める

重点目標

現状と課題

地球温暖化が重要視される中、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量削減は、地球規模での喫緊の課題であり、国や本市においても2050年のカーボンニュートラルの実現をめざした取組を進めています。

環境を守り、次世代に引き継いでいくために、省エネルギー化や脱炭素社会の実現に向けて、市民一人ひとりが地球環境への関心をもち、環境に配慮した生活を営むことや、市民・事業者・行政が一体となって循環型社会を構築していくことが求められています。

みんなでめざそう値

- 指標A 省エネルギーや再生可能エネルギーを活用している市民の割合 21.8% ▶ 25.0%
(2022年) (2026年)
- 指標B 市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量 4.2t-CO₂ ▶ 3.9t-CO₂
(2019年) (2030年)

特に関連する
SDGs
目標





ごみの減量化や資源化が進み、排出されるごみの量が減るとともに、排出されたごみが適正に処理され、市民一人ひとりが地球環境への負荷軽減に配慮した行動をとっていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 家庭や地域でごみの分別や不用品についての知識・情報を共有する
- 積極的に3R+Rに取り組む
- エコバッグやマイボトルを利用したり、環境に配慮した製品を購入する



事業者・団体・地域など

- 事業者は、過剰包装の廃止やラベルレス製品の提供、容器などをリユースするサービスを行う
- 事業者は、環境にやさしい製品を開発・提供する
- 事業者や団体は、ごみの分別と適切な排出に努める
- 地域で3R+Rについての知識や情報を共有する



行政

- 3R+Rを周知するとともに、ごみの減量化や資源の有効活用を推進する
- ごみを適切に処理する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- リサイクル活動団体等の活動を把握し、市民等とのマッチングを進める

関連する 主な個別計画

- 岸和田市環境計画
- 岸和田市災害廃棄物処理計画
- 岸和田市一般廃棄物処理基本計画

想定される公民の役割



個人や家庭

- 食品ロスの削減や節電など、普段の生活の中で脱炭素を意識した行動を心がける
- 地球環境に配慮した生活を心がける
- 省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入に努める



事業者・団体・地域など

- 事業者は、脱炭素製品の開発や販売を行う
- 事業者は、事業所のLEDへの付け替えやペーパーレスの推進など、環境に配慮する
- 事業者や団体は、省エネ活動に積極的に取り組む
- 地域で省エネルギーに関する情報を共有する
- 地域で省エネ活動に取り組む



行政

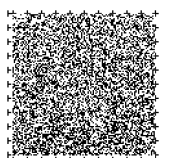
- 省エネルギー化や再生可能エネルギーの推進による地球温暖化対策を推進する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 事業者等の省エネルギー化の取組を把握し、市民等とのマッチングを進める

関連する 主な個別計画

- 岸和田市環境計画
- 岸和田市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)
- 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【自転車活用推進計画編ほか】



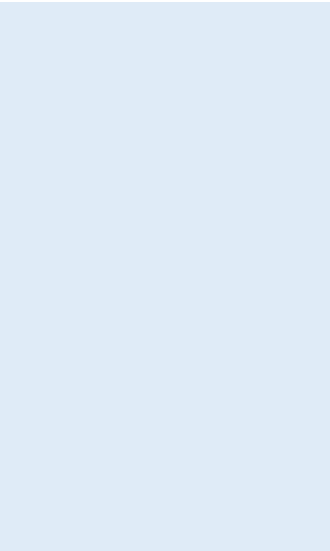
にぎわいと活力を 創造するまち

活発な経済活動が行われている

- ① 地域の事業者や個人事業主が活躍し、事業継続ができる環境づくりを進める
- ② 新たに市内で活動する事業者や個人事業主が、活動しやすい環境づくりを進める
- ③ 農業や水産業など、地域で安全な食が生産され、消費される環境づくりを進める

観光資源が活かされている

- ① 関西国際空港とのアクセス性を活かすとともに、観光資源が充実し、観光客が過ごしやすい環境づくりを進める

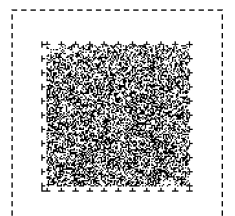


岸和田の魅力が伝わっている

- ① 岸和田の魅力を活用し、まちのイメージの向上を進める

にぎわいや活力を支える基盤が整っている

- ① 地域の活性化を導く拠点の形成を進める
- ② 拠点とのアクセス性の向上を図る
- ③ 適正な土地利用と景観形成を進める



個別目標 活発な経済活動が行われている

個別目標の方向性

重点目標

① 地域の事業者や個人事業主が活躍し、事業継続ができる環境づくりを進める

現状と課題

本市には、農林水産業をはじめ、製造業、小売業など、様々な事業者が事業を行っています。

また、地域に密着した事業者や個人事業主は、多様化する課題に対応した製品・サービスの提供や、雇用機会の創出を行うなど、地域活性化にとって必要不可欠な存在です。

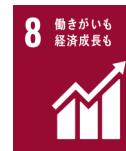
そのため、引き続き、事業者のセールスポイントを見つけ、具体的な売上アップのアドバイスによる伴走支援など、事業者や個人事業主の「稼ぐ力」を向上させる支援を行い、地域活性化につなげることが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 市内民営事業所数
7,230事業所 ▶ 増加
(2016年) (2025年)

指標B 付加価値額
244,824百万円 ▶ 増加
(2016年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の方向性

重点目標

② 新たに市内で活動する事業者や個人事業主が、活動しやすい環境づくりを進める

現状と課題

産業の新陳代謝を進め、地域の活力を強化するためには、企業誘致や創業を促進し、新たな事業者を増やしていくことが重要です。

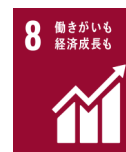
そのため、広域幹線道路の整備とあわせた土地の利活用などによる新しい企業立地の促進や、創業時の事務手続きをはじめ、ビジネスモデルの構築、資金調達など、多角的に支援していくことが求められています。

みんなでめざそう値

指標A Kishi-Biz*の支援による新規創業件数
11件 ▶ 18件
(2021年) (2025年)

指標B Kishi-Bizによる支援を受けた創業希望者数
56人 ▶ 増加
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

Kishi-Biz

岸和田市内をはじめとする事業者の売上アップや創業希望者に対して伴走支援を行う公的産業支援拠点のこと

市内の資源が効果的に活用され、多様な産業に携わる事業者や個人事業主、創業希望者などが活躍し、本市を取り巻く経済が活性化していることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 地域の商店や事業者などを利用し、地産地消に努める
- 市内で生み出される地域資源(商品・サービスなど)の魅力を知り、発信する



事業者・団体・地域など

- 事業者は、積極的に商品・サービスなどの付加価値を生み出す「稼ぐ力」の向上に努める
- 事業者は、岸和田産を積極的に提供・販売する
- 事業者は、伝統や技術の継承を進めるとともに、これらを活かした商品の開発などを行う
- 地域の企業や資源の魅力を発信する



行政

- 事業者等の経営や活動を支援する
- 地域資源やまちづくりの情報を収集し、発信を効果的に行う(P.93再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 地域の企業の魅力を発信し、企業間や学生とのマッチングを支援する
- 異業種産業の連携を支援する

関連する 主な個別計画

- 新・産業ビジョン岸和田



個人や家庭

- 地域の企業や地域資源(商品・サービスなど)の魅力を知り、発信する



事業者・団体・地域など

- 地域の企業や地域資源(商品・サービスなど)の魅力を発信する
- 事業者は、拠点への集積や、拠点の形成に協力する(P.95再掲)



行政

- 企業誘致や創業を支援する
- 地域資源やまちづくりの情報を収集し、発信を効果的に行う(P.93再掲)
- 地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める(P.95再掲)
- 幹線道路や市道の整備・管理を行い、適切な道路ネットワークを形成する(P.95再掲)

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 企業誘致や創業を支援する
- 地域資源の発見や情報共有を行うとともに、情報発信を行う(P.93再掲)
- 地域の拠点を活用した取組を進める(P.95再掲)

関連する 主な個別計画

- 新・産業ビジョン岸和田
- “新・岸和田”づくり～都市計画マスタープラン～

岸和田の次世代を
育むまち

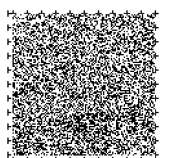
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 活発な経済活動が行われている

個別目標の 方向性

③ 農業や水産業など、地域で安全な食が生産され、消費される環境づくりを進める

現状と課題

本市は、海から山までの資源が豊かであり、都市近郊地というメリットを生かした農水産業が活発です。例えば、タマネギ、春菊、ミカンや桃などの農産物の栽培が盛んで、水産業では府内屈指の漁獲量を誇ります。

一方、全国的な流れと同様、本市においても担い手の高齢化や後継者不足、異常気象等による生産量不足などの課題に直面しています。

引き続き、これらの課題に対応する支援策とともに、6次産業化*などさらなる消費の拡大に資する取組を推進することが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 農産物・海産物の直売所の来場者数

560,718人 ▶ 600,000人

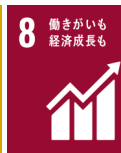
(2021年) (2025年)

指標B 地元産の食品を優先的に買う市民の割合

37.9% ▶ 41.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

6次産業化

農林漁業者が、農産物などの生産物の元々もっている価値をさらに高め、それにより、農林漁業者の所得(収入)を向上していくこと

市内の資源が効果的に活用され、多様な産業に携わる事業者や個人事業主、創業希望者などが活躍し、本市を取り巻く経済が活性化していることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 地域の産業の魅力を知り、発信する
- 積極的に地産地消に努める



事業者・団体・地域など

- 生産者は、安全安心な生産に努める
- 生産者は、消費者に生産者の顔が見える商品を提供する
- 生産者は、地域資源を活用し、新たな価値の創出を推進する
- 地域の産業の魅力を発信する



行政

- 農業・漁業生産を維持するための支援を行い、地域で消費できる環境を整える
- 農地の適正な保全・活用を支援する
- 地域資源やまちづくりの情報を収集し、発信を効果的に行う（P.93再掲）

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 農業経営を支援する
- 地域の産業の魅力を発信する
- 水産業の新たな経営体制の構築と魅力発信を進める

関連する 主な個別計画

- 岸和田市みどりの基本計画

岸和田の次世代を
育むまち

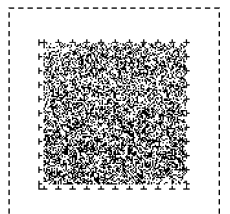
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 観光資源が活かされている

個別目標の 方向性

① 関西国際空港とのアクセス性を活かすとともに、 観光資源が充実し、観光客が過ごしやすい環境づくりを進める

重点目標

現状と課題

本市には、関西国際空港とのアクセス性の良さや、岸和田城やだんじり祭をはじめとする歴史文化、自然など、強みや魅力ある観光資源が存在しています。

今後は、これらをさらに磨き上げ、「体験プログラム」など新たな観光資源の創出を図るとともに、これまで以上に観光資源をつなぐ仕組みや観光ルートの構築が求められています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの誘客が不透明な中、あらためて国内に向けたマイクロツーリズム*の視点を取り入れるなど、時流に応じた取組が重要となっています。

みんなでめざそう値

指標A 1年間の主要観光施設及び
イベント等への入込客数

1,651,317人 ▶ 2,570,000人
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

マイクロツーリズム

自宅から1～2時間程度の移動圏内で観光する近距離旅行のこと

シェアサイクル

他の人と自転車をシェア(共有)し、好きなタイミング・場所・時間で利用するための仕組みのこと

インフルエンサー

社会や世間に与える影響力が大きい行動を行う人物のこと



観光資源の活用により魅力を高めることで、国内・国外から多くの旅行者が訪れ、にぎわっていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 観光資源を知り、SNSなどを活用した情報発信を行う
- 観光客におもてなしの心で接する



事業者・団体・地域など

- これまでの観光資源を大切にしつつ、時代に応じた磨き上げや新たな観光資源の創出に努める
- 事業者は、観光客向けのサービスを充実させる



行政

- 観光施設の管理・運営など、観光客の受け入れ体制を整える
- 観光資源の磨き上げや新たな観光資源の創出を支援する
- 広域観光を推進する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 観光ルートによる魅力発信と、あわせてシェアサイクル*などを活用する
- インフルエンサー*などにより泉州一体をアピールする
- 情報共有・発信の仕組みづくりや実践を公民が連携して行う

関連する 主な個別計画

- 第2次岸和田市観光振興計画

岸和田の次世代を
育むまち

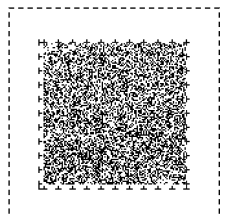
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 岸和田の魅力が伝わっている

個別目標の 方向性

① 岸和田の魅力を活用し、まちのイメージの向上を進める

重点目標

現状と課題

本市には、観光や文化、農・水産物、特産品など多くの地域資源や魅力がありますが、市内外問わず、認知度に差があるものと考えられます。

まずは、岸和田の地域資源や魅力について、市民一人ひとりが知り、理解することが何よりも重要です。

そして、再認識したまちの魅力を、市内外に向かって発信・PRし、多くの人々の認知度向上やまちのイメージ向上につなげていくことが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 市外の人々の好感度
23.6% ▶ 30.0%
(2021年) (2025年)

指標B 市のSNSによる情報発信数
375件 ▶ 400件
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標





市民が岸和田の資源や魅力を理解し、市内外に広く認知され、まちのイメージが向上していることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 地域資源を知り、理解する
- まちのイメージ向上につながる取組を進めるとともに、SNSなどを活用した情報発信を行う



事業者・団体・地域など

- 地域資源などを活用し、興味を引くような情報発信・PRに取り組む
- 市民や地域とともに、まちづくり活動に取り組む



行政

- 地域資源やまちづくりの情報を収集し、発信を効果的に行う

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 地域資源の発見や情報共有を行うとともに、情報発信を行う

関連する 主な個別計画

- 岸和田市シティセールス方針

岸和田の次世代を
育むまち

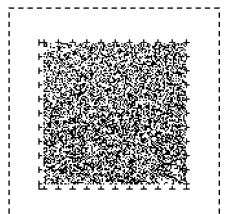
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 にぎわいや活力を支える基盤が整っている

個別目標の方向性

重点目標

① 地域の活性化を導く拠点の形成を進める

現状と課題

人口減少や超高齢社会が進展する中、市民生活や経済活動などの縮小や負のスパイラルにより、まちの衰退が懸念されます。

これらの衰退を都市構造の視点から食い止めるためには、無秩序な市街地の拡散を抑え、様々な機能が集積した拠点や社会・市場のニーズに的確に対応した拠点を適切に配置・形成することが必要です。

引き続き、丘陵部のゆめみヶ丘岸和田における取組の充実や、臨海部の貯木場を中心とした木材港地区の有効活用など、地域の活性化につながる拠点の形成に取り組むことが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 拠点のにぎわいがあると感じている市民の割合

基準値及び目標値は後年度に設定

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の方向性

重点目標

② 拠点とのアクセス性の向上を図る

現状と課題

適切に配置・形成された拠点を活かし、市民生活や経済活動の向上を図るためには、拠点とのアクセス性を高めるとともに、持続可能な交通ネットワークの構築が重要です。

また、一人ひとりが利用する交通手段として、過度に自動車に頼るのではなく、徒歩や自転車、公共交通機関などを活用することが重要です。

このことから、引き続き、道路や公共交通、先端技術を活用した新たな交通など、多様な交通手段の充実が求められています。

みんなでめざそう値

指標A 市内をスムーズに移動できると感じている市民の割合

36.1% ▶ 39.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標





適正な土地利用に基づき、拠点や交通網などの地域の活性化を導く基盤が整っていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 地域の店舗や医療・福祉施設などの事業所を利用する



事業者・団体・地域など

- 事業者は、拠点への集積や、拠点の形成に協力する



行政

- 地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める
- 市の中心部にふさわしいまちづくりを進める
- 駅の周りを安全で利便性の高い空間にする
- 港湾機能の充実を図る

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 地域の拠点を活用した取組を進める

関連する 主な個別計画

- “新・岸和田”づくり～都市計画マスタープラン～
- 木材港地区貯木場利活用ビジョン

- 岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想(Ver.2)

想定される公民の役割



個人や家庭

- 自動車だけでなく、路線バス・コミュニティバスなどの公共交通機関を積極的に利用する
- 徒歩や自転車など多様な移動手段を確保・活用する
- 交通ルールやマナーを守る(P.67再掲)



事業者・団体・地域など

- 交通利便性の向上のため、市民と連携・協力する
- 事業者は、先端技術を活用した交通利便性を向上させるサービスを提供する



行政

- 幹線道路や市道の整備・管理を行い、適切な道路ネットワークを形成する
- 地域の特性に応じた最適な交通手段の検討・構築を進める

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 移動がスムーズなまちを実現するため、市民・事業者・行政などみんなが連携・協力しあい、先端技術を活用した持続可能な交通手段の仕組み等を考える

関連する 主な個別計画

- 岸和田市交通まちづくりアクションプラン
- 岸和田市道路舗装修繕計画

- 岸和田市橋梁長寿命化修繕計画

岸和田の次世代を
育むまち

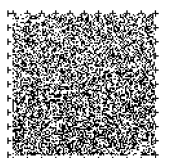
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなで作る
持続可能なまち



Uni-Voice

個別目標 にぎわいや活力を支える基盤が整っている

個別目標の 方向性

③ 適正な土地利用と景観形成を進める

現状と課題

土地はまちの限られた資源であり、市民生活や経済活動をはじめ、すべての共通の基盤となるものであるため、引き続き、社会情勢の変化や本市の特性を踏まえ、適正な土地利用を進めることが求められています。

景観については、岸和田らしい景観を形成するため、市民や事業者、行政などが互いの立場を理解しながら協力することが必要です。

みんなでめざそう値

指標A 景観がよく保全されていると感じている市民の割合

18.5% ▶ 21.0%

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標





適正な土地利用に基づき、拠点や交通網などの地域の活性化を導く基盤が整っていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 景観を大切にし、景観に配慮したまちづくりを進める



事業者・団体・地域など

- 事業者は、建築や開発行為の際、法令を遵守し、地域の環境や土地利用の方向性に配慮する
- 景観に配慮した活動を進める



行政

- 計画的で適正な土地利用や都市施設の配置を誘導する
- 良好なまちなみと景観の形成を推進する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 景観に関する情報を共有し、一体となった活動を進める

関連する 主な個別計画

- “新・岸和田”づくり～都市計画マスタープラン～
- 岸和田市景観計画

岸和田の次世代を
育むまち

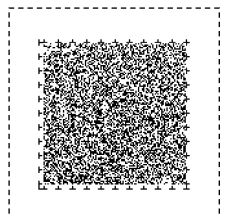
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



Uni-Voice

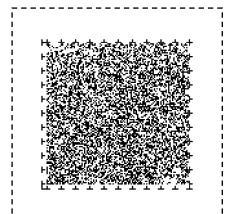
みんなで作る 持続可能なまち

みんなが主役の協働・連携したまちづくりが行われている

- ① 地域の担い手が育ち、まちづくり活動が活発に行われている環境づくりを進める
- ② 当事者意識の醸成とともに、様々な主体が力を発揮し、
協働・連携できる環境づくりを進める

持続可能で信頼される行政になっている

- ① 業務の効率的かつ効果的な推進に資する職員の育成を進める
- ② 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める
- ③ 行政手続きが便利になる環境づくりを進める
- ④ 安定的な歳入確保と適切な歳出管理を進める
- ⑤ 市独自の歳入確保を進める



個別目標 みんなが主役の協働・連携したまちづくりが行われている

個別目標の方向性

重点目標

① 地域の担い手が育ち、まちづくり活動が活発に行われている環境づくりを進める

現状と課題

まちづくりは、地域において市民自らの手で進めていくことが重要です。しかし、少子高齢化に伴うリーダーシップを担う人材の減少、都市化による既存住民と転入者のつながりの希薄化などにより、地域の担い手不足が深刻な課題になっています。

引き続き、地域の取組に対する支援を行うとともに、まちづくりに参画する市民の育成や発掘に努める必要があります。

みんなでめざそう値

指標A この1年間にボランティア活動や地域の自治活動に参加したことがある市民の割合

19.7% ▶ 22.0%
(2022年) (2026年)

指標B 市内のNPO法人数
67法人 ▶ 75法人
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の方向性

② 当事者意識の醸成とともに、様々な主体が力を発揮し、協働・連携できる環境づくりを進める

現状と課題

今後の社会は、様々な課題が複雑に絡みあい、さらなる人的・経済的な資源の制約が増すと想定されます。このような中、豊かで暮らしやすい地域社会をめざすには、市民・事業者・行政などがこれまで以上に協力しあい、まちづくりを進めていく必要があります。

本市においては、引き続き、それぞれの主体のまちづくり意識を醸成し、協働のまちづくりを推進することが求められています。

みんなでめざそう値

指標A 市民活動サポートセンターの利用者数
1,814人 ▶ 1,840人
(2021年) (2025年)

指標B 包括連携協定*数(累計)
8件 ▶ 12件
(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

包括連携協定

行政と民間企業が協力し、幅広い分野における連携を、継続して実施することを目的とした協定のこと

協働を実践するとともに、地域の中で市民や事業者などが活発に交流し、様々な活動に取り組んでいることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 地域の取組について関心を持ち、理解する
- 地域で自分にできることを考え、行動する
- コミュニティ活動やボランティアをはじめ、地域のまちづくり活動や運営に積極的に参加する



事業者・団体・地域など

- 誰もが参加しやすいきっかけづくりや仕組みを考える
- 世代間交流の機会をつくるなど、地域のつながりを創出する
- 地域のことは、地域のみんなで考え、決める
- 各団体の取組を見える化する



行政

- 地域のコミュニティ活動を支援するとともに、市民活動に参加しやすい環境づくりを進める

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- 地域の取組や活動などの情報を一元化し、共有する
- 市民や事業者などが一体となったまちづくりを進める

関連する 主な個別計画

- 公民協働推進の指針



個人や家庭

- 自治基本条例や市の取組に興味を持ち、理解・参画する
- 個人や家庭でできることは、責任をもって行う
- 地域で自分にできることを考え、行動する
- 選挙の投票に行く
- 市議会の運営に関心をもつ



事業者・団体・地域など

- 事業者や団体は、地域の一員として地域の取組に積極的に協力する
- 地域でできることは、責任をもって行う



議会

- 公正性、透明性、信頼性を確保し、市民に開かれた議会運営を行う
- 市民にとって、分かりやすい議会運営に努める
- 市民の傍聴の意欲を高める議会運営を行う



行政

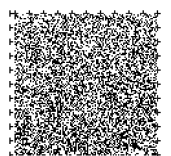
- 分かりやすい協働・参画の仕組みをつくる
- 市としての一体感を醸成する
- 市民との情報共有を推進する
- 選挙を適正かつ円滑に執行する
- 市議会の円滑な運営を支援する

各主体をつなぐ取組や 公民連携の取組例

- それぞれの主体性を保ちながら、活動をつなぐ

関連する 主な個別計画

- 公民協働推進の指針



個別目標 持続可能で信頼される行政になっている

個別目標の 方向性

① 業務の効率的かつ効果的な推進に資する職員の育成を進める

現状と課題

先端技術を活用するスマート自治体への転換が求められている中、それら技術の活用のためには、個々の職員の能力開発に取り組むことが求められています。

また、これまで前例踏襲主義やコスト・サービス意識の欠如など、厳しい指摘がなされてきたことを踏まえ、引き続き、効果的・効率的な行政運営がなされるよう、職員一人ひとりの意識向上に努める必要があります。

みんなでめざそう値

指標A

派遣研修及び能力開発研修への
延べ参加者数

266人 ▶ 330人

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の 方向性

② 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める

重点目標

現状と課題

スマート自治体への転換に向けて、総合的な組織力の向上、内部統制の適切な実施による業務の適正化、ICT技術を活用した業務の効率化・高度化に取り組むことが求められています。

また、これまでの厳しい財政状況からの新たな展開のため、今後は、上記に加え役割分担を踏まえた民間活力の導入、広域的な連携などによる行政の効率化・高度化など、行財政の構造改革に取り組む必要があります。

みんなでめざそう値

指標A

ペーパーレス会議の開催件数

0件 ▶ 48件

(2021年) (2025年)

指標B

AIやRPAの導入事務事業数

8事業 ▶ 24事業

(2022年) (2026年)

特に関連する
SDGs
目標



効率的な行政運営と安定的な財政運営に努め、市民福祉の向上のための的確な行政サービスを提供することにより、市民から信頼される行政になっていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 市の取組に関心を持ち、市政に関する認識を深める



事業者・団体・地域など

- 市の取組に関心を持ち、市政に関する認識を深める



行政

- 技術やノウハウの継承が行える環境を整えるとともに、政策形成やマネジメント能力をもった職員を育てる
- 業務の成果を正しく評価し、職員の適正な配置に努める
- 職員が働きやすく、業務に専念できる良好な職務環境を整える

関連する 主な個別計画

- 岸和田市人材育成基本方針
- 岸和田市特定事業主行動計画

想定される公民の役割



個人や家庭

- 市の取組に関心を持ち、市政に関する認識を深める
- 統計調査に協力する



事業者・団体・地域など

- 地域課題の解決や地域活性化等につながる事業者・団体のノウハウ、アイデア、技術等を行政に提案・提供する
- 統計調査に協力する

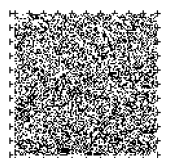


行政

- 目標の達成に向けて、計画的かつ適切な施策の推進及び進行管理、公平公正な事務の遂行に努める
- 広域的視点をもって、時代に応じた施策を積極的に推進する
- 合理的な組織編成と適正な人員管理に努める
- 市及び公営企業の経営の効率性を確保する
- ICTを活用し、効率的に事務を行う
- 公共工事や物品購入などの品質確保を図る
- 市の財産を適正に管理する
- 統計データを適切に管理する
- 個人情報保護の徹底を図る

関連する 主な個別計画

- 新行財政改革プラン
- 岸和田市公共施設等総合管理計画
- 岸和田市新庁舎整備基本計画
- 第2次岸和田市情報化推進計画 第2期・官民データ活用推進計画



個別目標 持続可能で信頼される行政になっている

個別目標の方向性

③ 行政手続きが便利になる環境づくりを進める

現状と課題

スマート自治体への転換が求められている中、市民がその利益を享受できるようICT技術などを積極的に活用し、行政手続きの利便性の向上などが求められています。

また、引き続き、市民ニーズを的確に把握し、行政サービスの改善・向上に取り組むとともに、職員のマナー意識の向上やレベルの高い対応を行い、市民が親しみ、利用しやすい市役所をめざす必要があります。

みんなでめざそう値

指標A オンライン申請が可能な
事務手続き※数

0手続き ▶ 24手続き

(2021年) (2025年)

※デジタル・ガバメント実行計画で定められた優先的にオンライン化を推進すべき手続きのうち、子育て・介護分野に関するもの

特に関連する
SDGs
目標



個別目標の方向性

④ 安定的な歳入確保と適切な歳出管理を進める

現状と課題

人口減少に伴う税収減少が予想される中、適正な歳出管理を進めるとともに、税を安定的に確保することが求められています。

また、市民負担の公平性の確保を図るために、収納率の向上や滞納額の削減に、引き続き対応する必要があります。

みんなでめざそう値

指標A 経常収支比率

92.4% ▶ 95.7%※

(2021年) (2025年)

※増加をめざす目標設定ではなく、財政計画において各年度の歳出見込等を踏まえ算出し、設定しています。

特に関連する
SDGs
目標



用語解説

ワンストップ化

複数の用事を1か所で済ませられるような環境整備を行うこと(例えば、行政においては、以前は複数の窓口に分かれていたものを、1つの窓口で手続きを行えるようにすること)

効率的な行政運営と安定的な財政運営に努め、市民福祉の向上のための的確な行政サービスを提供することにより、市民から信頼される行政になっていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- オンラインによる行政手続きなどを積極的に活用する



事業者・団体・地域など

- オンラインによる行政手続きなどを積極的に活用する



行政

- ワンストップ化*などに取り組む、市民が利用しやすい窓口にする
- 必要な行政サービスがオンラインや身近で手軽に受けられる環境を整える

関連する 主な個別計画

- 岸和田市新庁舎整備基本計画
- 第2次岸和田市情報化推進計画 第2期・官民データ活用推進計画

想定される公民の役割



個人や家庭

- 適正に申告し、期限を守って納税する
- 受益者負担の考え方の下、各種使用料などを納付する



事業者・団体・地域など

- 事業者は、適正に申告し、期限を守って納税する
- 受益者負担の考え方の下、各種使用料などを納付する



行政

- 市税等を公平かつ適正に課税・収納する
- 中長期の視点で、効果的・効率的な財源配分や単年度収支及び基金・借入金管理を行う

関連する 主な個別計画

- 岸和田市財政計画
- 新行財政改革プラン

岸和田の次世代を
育むまち

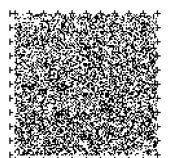
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

みんなでつくる
持続可能なまち



個別目標 持続可能で信頼される行政になっている

個別目標の 方向性

⑤ 市独自の歳入確保を進める

現状と課題

人口減少に伴う税収減少が予想される中、税外収入を安定的に確保することが求められています。

特に競輪事業(公営競技)については、引き続き構造改革に取り組むとともに、競輪の面白さ・楽しさを広くPRするなど、新規のファン獲得策などを推進していく必要があります。

みんなでめざそう値

指標A 岸和田競輪売上高

248億円 ▶ 248億円

(2021年) (2025年)

指標B ふるさと寄附受入額

9.6億円 ▶ 10億円

(2021年) (2025年)

特に関連する
SDGs
目標





効率的な行政運営と安定的な財政運営に努め、市民福祉の向上のために的確な行政サービスを提供することにより、市民から信頼される行政になっていることをめざします

想定される公民の役割



個人や家庭

- 税外収入の確保に協力する



事業者・団体・地域など

- 税外収入の確保に協力する



行政

- 公営競技事業を健全に運営する
- 税外収入の確保に努める

関連する 主な個別計画

- 岸和田競輪場施設整備計画

岸和田の次世代を
育むまち

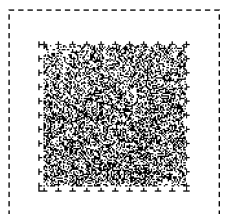
健康で自分らしく
生きられるまち

安全で安心して
暮らせるまち

人と自然が共生した
住みよいまち

にぎわいと活力を
創造するまち

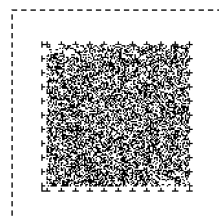
みんなでつくる
持続可能なまち





4

まち・ひと・しごと創生総合戦略



1. まち・ひと・しごと創生総合戦略とは

はじめに(国の動向と総合戦略について)

国においては、出生率の低下によって引き起こされる人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的として、地方創生施策を進めています。また、この目的に向かって政府一体となって取り組むため、平成26年にまち・ひと・しごと創生法(以下、「法」といいます。)が制定され、内閣にまち・ひと・しごと創生本部が設置されています。

そして、国は法に基づき、5か年の目標や施策の基本的方向等をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、「総合戦略」といいます。)を策定しており、以下の基本目標などを掲げて取組を進めています。

<めざすべき将来>

- ◇ 将来にわたって「活力ある地域社会」の実現
- ◇ 「東京圏への一極集中」の是正

<基本目標>

1. 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする
2. 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

<横断目標>

- ◇ 新しい時代の力を流れにする
- ◇ 多様な人材の活躍を推進する

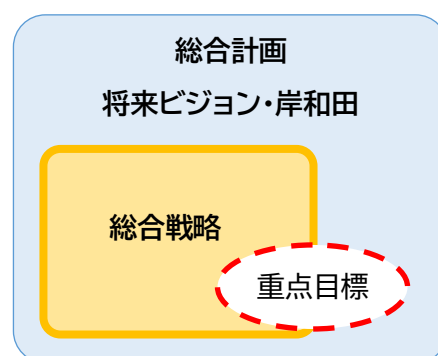
本市の総合戦略について

法においては、市町村についても総合戦略策定の努力義務が規定されており、国及び都道府県の総合戦略を勘案して策定する必要があります。

また、市町村で定める総合戦略は、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力あるまちを維持するための計画として位置付けられています。

本市では、この総合戦略について、総合計画に一体化させるとともに、具体的な施策の推進やその評価なども、一体的に実施していくものとしています。

なお、総合計画では、市が関わるすべての施策を網羅的・体系的に整理しており、その中から総合戦略の目的に合致する取組を抽出し、本市の総合戦略として再整理しています。そのため、右図のとおり総合計画の中に総合戦略を包含している形となります。

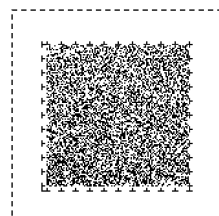


デジタル田園都市国家構想について

国は、地方が抱える課題をデジタル実装を通じて解決し、誰一人取り残されず全ての人々がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現するという「デジタル田園都市」をめざした取組を進めています。

また、これまでの地方創生施策は継続しつつ、これをデジタルの力によって高度化・加速化させることにより、個性あふれる地域を実現していくための基礎をつくっていきとしており、国の総合戦略を抜本的に改訂する予定とされています。

本市においても、国や大阪府の動向に留意し総合戦略について検討するとともに、重点目標や岸和田を強くする“3つの視点”に定めるように、スマートシティの実現や積極的な先端技術の活用に向けて取り組みます。



2. 総合戦略の全体像

本市の総合戦略の目的

総合戦略の前提となる「岸和田市人口ビジョン」においては、何の手だても打たず、現状のまま推移するとした場合、本市の総人口は大きく落ち込み、少子高齢化がさらに加速することを明らかにしています。

国が示すように人口減少や、本市の活力を支える生産年齢人口及び将来の担い手の減少は、まちの活気を減退することにつながり、このまちの活気の減退が、さらなる人口減少を引き起こすという“負のスパイラル”は、本市にも例外なく訪れるものと想定されます。

総合戦略は、この“負のスパイラル”の主原因となる急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力あるまちを維持することを目的としています。

総合戦略目標 と 横断目標

国が示す基本目標を勘案しつつ、本市の実情を踏まえた取組を推進するため、右記のとおり本市における総合戦略目標を設定します。

また、横断的な視点として、総合計画で定める「岸和田を強くする“3つの視点”」の要素を含んだ横断目標を設定します。

なお、いずれの取組についても、総合計画の体系下に位置付けられているものであり、総合戦略の目的に合致するとして抽出した取組を、右記の総合戦略目標にひもづけて再整理します。

国の基本目標・横断目標(再掲)

<基本目標>

1. 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする ●
2. 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる ●
3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる ●
4. ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる ●

<横断目標>

- ◇ 新しい時代の力を流れにする
- ◇ 多様な人材の活躍を推進する

本市の総合戦略目標・横断目標

<総合戦略目標>

● ① 持続可能で稼げるまちの実現

地域資源を活かし、多彩な産業の生産性・競争力の強化を図るとともに、その担い手や専門人材の確保・育成をめざします。

● ② 魅力的で安心して働けるまちの実現

誰もがやりがいをもって働ける環境の創出とともに、適切なワーク・ライフ・バランスの実現をめざします。

● ③ 移住・定住が活発なまちの実現

若い世代を中心とした人々の移住・定住の促進とともに、地域の魅力や暮らしの満足度の向上をめざします。

● ④ 関わる人々が多様で豊かなまちの実現

市内外の多くの人々の本市に対する関心が高まり、地域課題の解決や地域コミュニティの活性化にみんなで取り組んでいる状態をめざします。

● ⑤ 結婚・出産・子育てしやすいまちの実現

地域資源を活用した支援や切れ目のない支援を充実させることにより、誰もが安心して結婚・出産・子育てができる状態をめざします。

● ⑥ ひとが集い、誰もが安心して暮らせるまちの実現

適切な拠点形成と交通ネットワークの最適化とともに、健康・防災・安全対策・良好な住環境の創出など安全安心につながる取組が進められている状態をめざします。

<横断目標>

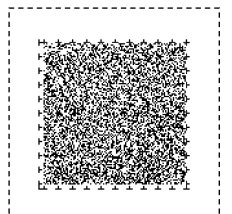
① 岸和田の絆を活用した多様な人材の活躍推進

② スマートシティを見据えた先端技術の活用

③ 多様な地域資源の活用

上記の総合戦略目標と横断目標のほか、数値目標や基本的方向、具体的な取組とそのKPI(重要業績評価指標)等については、別途、毎年度定めます。

次ページ以降では、総合戦略と総合計画の関連性を示すため、「総合戦略目標」と関連の深い「個別目標の方向性」について整理しています。



3.総合戦略と総合計画の関連性

下表は「総合戦略目標」と関連の深い「個別目標の方向性」について整理したものです。

基本目標	個別目標	関連する 重点目標	個別目標の方向性
岸和田の次世代を育むまち	安心して子どもを生み、育てられている	1	① 妊産婦や乳幼児の切れ目のない健康づくりを進める ② 妊娠を望む家庭や子育て家庭の不安解消、経済的負担の軽減を進める
	働きながら子育てができています	1	① 保育を必要とする人が、安心して子どもを預けられる環境づくりを進める
	子どもの健康と安全が保たれている	1	① 健診などによる疾病の早期発見・予防など子どもの健康づくりを進める ② 食育や体力づくりなど子どもの健康な身体づくりを進める ③ 登下校をはじめ、子どもが安全に学校や地域で過ごせる環境づくりを進める ④ 障害のある子どもの発達支援とともに、家庭生活での負担軽減を進める ⑤ 育てにくさを感じる親への支援や、児童虐待に関する相談の充実、早期発見・早期対応を進める
	子どもの個性や能力が豊かに育まれている	1 1	① 適正な就学・就園や経済的な支援により教育の機会を確保する ② 子ども一人ひとりが輝くための適切な教育支援を行う ③ 学校園の適切な維持管理や魅力ある運営を行う ④ 地域と連携し、子どもの社会的な心を育む ⑤ 地域の産業を担う人材育成を進める
	生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている		① 様々な学びの活動や知識、経験の活用を進めるとともに、コミュニティのつながりを創出する ② スポーツへの親しみや参画の向上を図るとともに、スポーツができる環境づくりを進める ③ 芸術や文化への親しみや参画の機会を通して、心の豊かさの醸成を図る
	誰もが社会参加し、活躍できる場がつけられている		① 働きたい人の就労機会の確保を進める ② 市内事業所の労働環境の向上を進める ③ 障害者の就労支援の充実と生きがいづくりを進める ④ 高齢者の雇用促進と生きがいづくりを進める
	郷土の歴史や文化が引き継がれている		① 郷土の歴史や文化に触れる機会をつくる ② 岸和田の歴史や文化の保存・活用を進める
	健康意識の向上とともに、介護予防が進められ、心身の健康が維持・増進している		① 健康意識の向上や重症化予防など疾病予防を進める
	医療サービスを受ける環境が整うとともに、緊急時にも医療が受けられる状態になっている		① 医療体制の充実により、必要なときに必要な医療が受けられる環境づくりを進める
	平和で、多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、自分らしく生活できる環境が整っている		① 個々の人権や多様な価値観の尊重意識を広げるとともに、多文化に触れる機会を創出し、他者理解を促進する ② 男女共同参画の取組を進める ③ みんなが使いやすいデザインに配慮した施設環境をつくる ④ 平和への意識向上を進める
健康で自分らしく生きられるまち	地域で支えあい、助けあえる関係が築けている		① 常日頃から、地域の中でお互いに助けあえる地域共生社会の関係づくりを進める
	介護や医療保険、障害者支援の福祉サービスなど、誰もが必要な支援を受け安心して暮らしている		① その人らしい自立した生活につながる介護サービスを提供する ② 医療保険制度を適切に運営する ③ 高齢者が自分らしく生活できる環境づくりを進める ④ 障害者が自分らしく生活できる環境づくりを進める ⑤ 生活困窮者などに必要な支援を行う ⑥ 住宅困窮者に居住支援を行う

【凡例】 ○印：「総合戦略目標」と関連の深い「個別目標の方向性」

総 合 戦 略					
目標①	目標②	目標③	目標④	目標⑤	目標⑥
持続可能で 稼げるまち	魅力的で 安心して働けるまち	移住・定住が 活発なまち	関わる人々が 多様で豊かなまち	結婚・出産・子育て しやすいまち	ひとが集い、誰もが 安心して暮らせるまち
				○	
				○	
				○	
				○	○
				○	○
				○	
				○	○
				○	
		○		○	
			○	○	
○			○	○	
○			○	○	
				○	○
				○	○
				○	○
	○				
	○				
	○				
	○				
	○				
○		○			
			○	○	



下表は「総合戦略目標」と関連の深い「個別目標の方向性」について整理したものです。

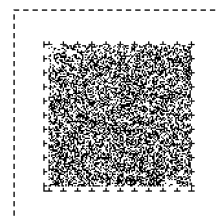
基本目標	個別目標	関連する 重点目標	個別目標の方向性
安全で安心して暮らせるまち	事故や犯罪などに巻き込まれない生活が送れている		① 交通マナーの向上や交通事故を防ぐ環境づくりを進める ② 空き家対策や建築物の安全性の確保を行うとともに、良好な住環境の創出を進める ③ 防犯意識の向上とともに、犯罪防止につながる環境づくりを進める ④ 安心してサービスや物の購入などの消費行動が行える環境づくりを進める
	災害などの非常時への準備が進められ、強靱な環境になっている		① 災害被害を最小限にする強靱な基盤の整備を計画的に進める ② 発災時にみんなが迅速かつ柔軟に対応できる環境づくりを進める ③ 火災予防や火災被害を最小限にする取組を進める
住みよいためまち	良好な生活環境とともに、まちが美しくなっている		① 環境汚染などによる健康被害の発生を防ぐ ② 安全安心な水を安定的に供給する ③ まちの美化を進める
	人が緑と触れあっている		① まちの緑の適正な保全とまちの緑化を進める ② 貴重な自然環境と生物多様性の保全・活用を進める
	環境の負荷を減らした循環共生型の地域社会がつくられている	3	① ごみの減量や資源の有効活用など3R+Rを進める ② 省エネルギー化や再生可能エネルギーによる脱炭素を推進し、地球温暖化防止を進める
にぎわい創造するまち	活発な経済活動が行われている	2	① 地域の事業者や個人事業主が活躍し、事業継続ができる環境づくりを進める
		2	② 新たに市内で活動する事業者や個人事業主が、活動しやすい環境づくりを進める ③ 農業や水産業など、地域で安全な食が生産され、消費される環境づくりを進める
	観光資源が活かされている	2	① 関西国際空港とのアクセス性を活かすとともに、観光資源が充実し、観光客が過ごしやすい環境づくりを進める
	岸和田の魅力が伝わっている	1	① 岸和田の魅力を活用し、まちのイメージの向上を進める
	にぎわいや活力を支える基盤が整っている	2 2	① 地域の活性化を導く拠点の形成を進める ② 拠点とのアクセス性の向上を図る ③ 適正な土地利用と景観形成を進める
持続可能なまち	みんなが主役の協働・連携したまちづくりが行われている	3	① 地域の担い手が育ち、まちづくり活動が活発に行われている環境づくりを進める ② 当事者意識の醸成とともに、様々な主体が力を発揮し、協働・連携できる環境づくりを進める
	持続可能で信頼される行政になっている	3	① 業務の効率的かつ効果的な推進に資する職員の育成を進める ② 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める ③ 行政手続きが便利になる環境づくりを進める ④ 安定的な歳入確保と適切な歳出管理を進める ⑤ 市独自の歳入確保を進める

【凡例】 ○印：「総合戦略目標」と関連の深い「個別目標の方向性」

総 合 戦 略					
目標① 持続可能で 稼げるまち	目標② 魅力的で 安心して働けるまち	目標③ 移住・定住が 活発なまち	目標④ 関わる人々が 多様で豊かなまち	目標⑤ 結婚・出産・子育て しやすいまち	目標⑥ ひとが集い、誰もが 安心して暮らせるまち
		○			○ ○ ○
					○ ○
					○ ○ ○
					○ ○
					○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○		○	○	
	○	○		○	
		○		○	
			○	○	○ ○
			○	○	
			○		

ピンク色網かけ：総合計画の重点目標に関連するもの

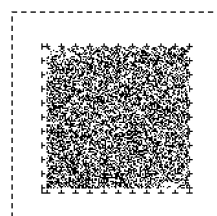
※関連する重点目標欄における番号は、12～15ページに記載の重点目標1～3を意味します。







資料編

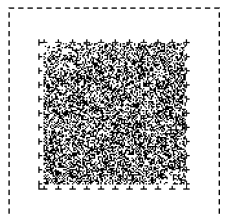


1.みんなでめざそう値の一覧(出典・計算式)

基本目標 岸和田の次世代を育むまち

指 標	説 明（目標値の設定理由）	みんな でめざ そう値 （目標値）	出典・計算式	ページ
乳児死亡率(人口1,000人当たり)	乳児の健康管理状況を測定する指標(公衆衛生や医学の水準の維持向上により、乳児死亡率ゼロをめざし、設定した。)	1.5% ▶ 0%	大阪府人口動態統計データ	20
幼児のう歯(虫歯)保有率	幼児の口腔の健康状態を測定する指標(幼児の口腔の健康状態の向上をめざし、減少とした。)	19.5% ▶ 減少	3歳児歯科健康診査実施状況	20
地域子育て支援センターの利用者数	親同士の交流・情報交換の状況を測定する指標(人数制限撤廃による参加人数の増加を見込み、設定した。)	4,824人 ▶ 8,319人	地域子育て支援センターの利用者数(4月～3月)	20
岸和田は子どもを生み育てやすいと感じている市民の割合	子育て体制の充実度合いについての市民の感じ方を測定する指標(子育て体制の充実をめざし、設定した。)	27.8% ▶ 31.0%	市民意識調査で測定	20
保育所待機児童数	保護者の就労により保育が必要な対象者の保育所入所状況を測定する指標(待機児童を出さない状態をめざし、設定した。)	25人 ▶ 0人	厚生労働省の待機児童の算出基準に基づいて算出した4月1日の待機児童数	22
チビッコホーム待機児童数	両親の就労により保育が必要な対象者のチビッコホーム入所状況を測定する指標(第2期岸和田市子ども・子育て支援事業計画に基づき、設定した。)	28人 ▶ 0人	4月1日のチビッコホーム入所希望者数－入所者数	22
児童のう歯(虫歯)保有率	児童の口腔の健康状態を測定する指標(保有率は減少傾向にあり、現状維持をめざし、設定した。)	50.7% ▶ 50.7%	健康推進課資料	24
生徒のう歯(虫歯)保有率	生徒の口腔の健康状態を測定する指標(保有率は減少傾向にあり、現状維持をめざし、設定した。)	35.2% ▶ 35.2%	健康推進課資料	24
「朝食を毎日食べていますか」に肯定的回答をした児童(小6)の割合	児童の健康の基礎となる生活習慣の状況を測定する指標(全国平均をめざし、設定した。)	92.5% ▶ 94.9%	全国学力・学習状況調査質問紙調査	24
「朝食を毎日食べていますか」に肯定的回答をした生徒(中3)の割合	生徒の健康の基礎となる生活習慣の状況を測定する指標(全国平均をめざし、設定した。)	87.9% ▶ 92.8%	全国学力・学習状況調査質問紙調査	24
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点がDまたはE(下位層)の児童(小5男子)の割合	児童の基礎体力の状況を測定する指標(全国平均を上回っているが、さらなる向上をめざし、設定した。)	35.9% ▶ 33.0%	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	24
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点がDまたはE(下位層)の児童(小5女子)の割合	児童の基礎体力の状況を測定する指標(全国平均をめざし、設定した。)	30.8% ▶ 27.6%	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	24
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点がDまたはE(下位層)の生徒(中2男子)の割合	生徒の基礎体力の状況を測定する指標(全国平均を上回っているが、さらなる向上をめざし、設定した。)	32.2% ▶ 30.0%	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	24
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点がDまたはE(下位層)の生徒(中2女子)の割合	生徒の基礎体力の状況を測定する指標(全国平均をめざし、設定した。)	19.7% ▶ 15.4%	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	24

指 標	説 明（目標値の設定理由）	みんなでめざそう値（目標値）	出典・計算式	ページ
新規のこども110番協力件数（家庭や事業所など）	子どもの地域での安全状況を測定する指標（過去の水準に基づき、設定した。）	13件▶30件	生涯学習課資料	26
子どもの安全見まもり隊協力者数	子どもの地域での安全状況を測定する指標（現状と同水準をめざし、設定した。）	2,566人▶2,600人	生涯学習課資料	26
総合通園センター受入待機児童数	障害のある児童が必要な療育を受けられているかを測定する指標（支援を必要とする障害児を取り残さないよう、待機児童を出さない状態をめざし、設定した。）	0人▶0人	4月1日の入所希望者数－入所者数	26
児童虐待や虐待の疑いを含む相談の受付人数（児童1,000人当たり）	子どもの人権がどの程度守られているかを測定する指標（支援や保護が必要な子どもや保護者等についての相談をしやすい環境をめざし、増加とした。）	10.4人▶増加	子ども家庭課資料	28
学齢期児童生徒において就学している者の割合	適正な就学のもと、教育を受ける機会が等しく保障されているかを測定する指標（就学義務がない外国籍の子どもを含め、学齢期児童生徒において適正に就学している状況をめざし、設定した。）	99.98%▶100%	教育総務部総務課資料	30
全国学力・学習状況調査における正答率40%以下の児童の割合（小6国語）	児童の基礎学力の状況を測定する指標（全国平均の正答率をめざし、設定した。）	25.7%▶14.0%	全国学力・学習状況調査	30
全国学力・学習状況調査における正答率40%以下の児童の割合（小6算数）	児童の基礎学力の状況を測定する指標（全国平均の正答率をめざし、設定した。）	16.8%▶11.0%	全国学力・学習状況調査	30
全国学力・学習状況調査における正答率40%以下の生徒の割合（中3国語）	生徒の基礎学力の状況を測定する指標（全国平均の正答率をめざし、設定した。）	24.2%▶11.0%	全国学力・学習状況調査	30
全国学力・学習状況調査における正答率40%以下の生徒の割合（中3数学）	生徒の基礎学力の状況を測定する指標（全国平均の正答率をめざし、設定した。）	38.4%▶25.0%	全国学力・学習状況調査	30
学校施設に係る長寿命化計画の進捗率	子どもたちが生活の大半を過ごす学校施設の安全性を測定する指標（学校施設に係る長寿命化計画に基づき、設定した。）	0%▶15.0%	学校管理課資料	32
「人が困っているときは、進んで助ける」と肯定的回答をした児童（小6）の割合	児童の他者理解などの社会性を測定する指標（全国平均をめざし、設定した。）	87.9%▶88.7%	全国学力・学習状況調査質問紙調査	32
「人が困っているときは、進んで助ける」と肯定的回答をした生徒（中3）の割合	生徒の他者理解などの社会性を測定する指標（全国平均をめざし、設定した。）	83.1%▶88.5%	全国学力・学習状況調査質問紙調査	32
市立産業高校の就職希望者のうち、市内事業者または市内に支店のある事業者への就職率	地域に貢献する人材の創出状況を測定する指標（地域に貢献する人材の創出を図り、増加とした。）	26.3%▶増加	産業高校学務課資料	34

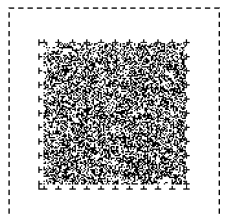


基本目標 岸和田の次世代を育むまち(つづき)

指 標	説 明（目標値の設定理由）	みんなでめざそう値（目標値）	出典・計算式	ページ
この1年間に自分の経験や特技を何らかの形で地域に活かしたことがある市民の割合	学習成果の地域への活用状況を測定する指標（地域で活躍している人が増えている状態をめざし、設定した。）	10.5%▶ 13.0%	市民意識調査で測定	36
市立図書館への登録率	図書館への関心度を測定する指標（高齢化の進展に伴って登録率は漸減傾向にあるが、現状維持をめざし、設定した。）	27.9%▶ 28.0%	登録者数／人口× 100	36
スポーツ・運動を定期的（週1回以上）にしている市民の割合	スポーツ活動への取組状況を測定する指標（岸和田市スポーツ推進計画に基づき、設定した。）	44.7%▶ 60.9%	市民意識調査で測定	36
この1年間に芸術・文化活動（コンサートや演劇などの鑑賞を含む）を行ったことがある市民の割合	芸術・文化活動の取組状況を測定する指標（芸術・文化活動に取り組んでいる市民が増えている状態をめざし、設定した。）	27.2%▶ 30.0%	市民意識調査で測定	38
有効求人倍率	就業状況を測定する指標（就職希望者が就職しやすい環境をめざし、増加とした。）	0.74▶増加	岸和田公共職業安定所（有効求人数／有効求職者数）	40
労働環境に満足していると感じている市民の割合（市内従事者）	市内労働者が労働環境に満足しているかを測定する指標（労働環境の充実をめざし、設定した。）	34.6%▶ 39.0%	市民意識調査で測定	40
長期的な病気や障害を抱えている人のうち、生きがいを感じることがある市民の割合	障害などを抱えている人の生きがいについての市民の感じ方を測定する指標（障害などを抱えていても生きがいを感じられる社会をめざし、設定した。）	42.7%▶ 47.0%	市民意識調査で測定	42
市役所（市長部局）における障害のある人の雇用率	市役所における障害者雇用の状況を測定する指標（現行の法定雇用率に基づき、設定した。）	2.57%▶ 2.60%	人事課資料	42
生きがいを感じることがある65歳以上の市民の割合	高齢者の生きがいについての市民の感じ方を測定する指標（高齢であっても生きがいを感じられる社会をめざし、設定した。）	50.0%▶ 54.0%	市民意識調査で測定	42
この1年間に郷土の歴史や文化財に触れる機会があった市民の割合	郷土の歴史や文化財に触れる機会があったかについての市民の活動の状況を測定する指標（郷土の歴史や文化財に触れる機会が増えている状態をめざし、設定した。）	22.7%▶ 25.0%	市民意識調査で測定	44
市内の指定文化財及び登録有形文化財の数	文化財が保全・継承されている状況を測定する指標（保護することが目的であるため、現在の文化財の維持をめざし、設定した。）	52件▶52件	年度末の市内の指定文化財及び登録有形文化財の数	44

基本目標 健康で自分らしく生きられるまち

指 標	説 明（目標値の設定理由）	みんなでめざそう値（目標値）	出典・計算式	ページ
がん検診(胃がん)の受診率	市民の健康に対する意識を測定する指標(疾病の早期発見・重症化予防をめざし、増加とした。)	3.5%▶増加	市検診データ	48
がん検診(肺がん)の受診率	市民の健康に対する意識を測定する指標(疾病の早期発見・重症化予防をめざし、増加とした。)	10.3%▶増加	市検診データ	48
がん検診(大腸がん)の受診率	市民の健康に対する意識を測定する指標(疾病の早期発見・重症化予防をめざし、増加とした。)	8.6%▶増加	市検診データ	48
がん検診(乳がん)の受診率	市民の健康に対する意識を測定する指標(疾病の早期発見・重症化予防をめざし、増加とした。)	11.1%▶増加	市検診データ	48
がん検診(子宮頸がん)の受診率	市民の健康に対する意識を測定する指標(疾病の早期発見・重症化予防をめざし、増加とした。)	10.3%▶増加	市検診データ	48
規則正しい食生活を心がけている市民の割合	規則正しい食生活に対する市民の意識を測定する指標(目標値は後年度に設定)	後年度に設定	市民意識調査で測定	48
かかりつけ医をもっている市民の割合	市民の健康管理に対する取組や医療機関の役割分担に対する理解について測定する指標(健康について気軽に相談できるかかりつけ医をもっている人が増えている状態をめざし、設定した。)	67.5%▶ 70.0%	市民意識調査で測定	50
軽症者(入院を必要としない)の救急車による搬送割合	市民の救急車の利用方法に対する理解を測定する指標(全国平均をめざし、設定した。)	57.6%▶ 45.1%	軽症者の救急車両利用回数／救急車両での搬送者数×100	50
市民病院の救急患者応需率	市民病院における救急患者の受け入れ状況を測定する指標(過去3年間の平均を上回るよう、設定した。)	70.5%▶ 80.0%	市民病院資料	50
市民病院の紹介患者数	地域の医療機関と市民病院との連携状況を測定する指標(過去の平均値に基づき、設定した。)	9,083人▶ 11,000人	市民病院資料(4月～3月の延べ数)	50
人権研修(市民の集い、人権問題専門講座等)への参加者のうち、参加前後で意識が変わった人の割合	人権研修における成果を測定する指標(参加者全員の人権尊重意識及び他者理解の促進をめざし、設定した。)	94.7%▶ 100%	人権・男女共同参画課資料	52
審議会等の女性委員の割合	男女共同参画社会実現への取組状況を測定する指標(意思決定等の場に男女がバランスよく参画できることをめざし、設定した。)	31.7%▶40% 以上60%以下	女性委員数／審議会等の委員数×100	52
えるぼし認定事業者数	民間事業者の女性の活躍に関する取組の実施状況を測定する指標(市内事業者での女性の活躍推進をめざし、増加とした。)	0事業者▶増加	厚生労働省女性活躍推進法への取組状況	52
駅と主要施設を結ぶ道路等のバリアフリー化率	鉄道駅周辺のバリアフリー化の状況を測定する指標(各道路管理者の整備計画に基づき、設定した。)	31.0%▶ 32.6%	整備済延長／特定経路延長×100	54
平和は大切だと感じている市民の割合	非核平和に対する市民の感じ方を測定する指標(平和を大切に思っている人が増えている状態をめざし、設定した。)	95.6%▶ 97.0%	市民意識調査で測定	54

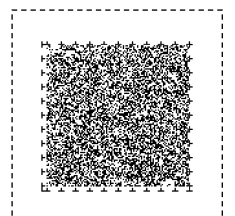


基本目標 健康で自分らしく生きられるまち(つづき)

指 標	説 明（目標値の設定理由）	みんなでめざそう値（目標値）	出典・計算式	ページ
困ったときに近くに相談できる人や場所がある市民の割合	地域福祉についての市民の感じ方を測定する指標（身近に相談できる人がおり、お互いに助けあえる社会をめざし、設定した。）	35.0%▶ 38.0%	市民意識調査で測定	56
介護サービス、介護予防サービス及び総合事業の利用率	介護保険サービス等の給付状況を測定する指標（支援を必要とする人が適切に介護サービス等を利用できる環境づくりを図り、増加とした。）	79.8%▶増加	サービス利用者数／ 認定者数×100	58
国民健康保険料の収納率	国民健康保険の運営状況を測定する指標（毎年0.1%の収納率向上をめざし、設定した。）	94.5%▶ 95.9%	国民健康保険特別会計決算書保険料収納額／保険料調定額×100	58
後期高齢者医療保険料の収納率	後期高齢者医療の運営状況を測定する指標（毎年0.01%の収納率向上をめざし、設定した。）	99.75%▶ 99.79%	後期高齢者医療保険特別会計決算書保険料収納額／保険料調定額×100	58
認知症サポーター養成人数（累計）	支援を必要とする高齢者に対するサポート体制を測定する指標（支援を必要とする高齢者をサポートする人材の創出をめざし、増加とした。）	17,837人▶ 増加	福祉政策課資料	60
訪問系福祉サービスの利用量（月平均利用時間）	在宅生活する障害者が必要な生活支援を受給できているかを測定する指標（支援を必要とする人が適切に障害福祉サービスを利用できる環境づくりを図り、増加とした。）	15,428時間/月 ▶増加	年間延べ利用時間／12か月	60
生活困窮相談支援プラン作成件数（評価実施件数）のうち、支援により生活困窮から変化が見られた割合	生活困窮者への支援において生活改善が見られた状況を測定する指標（過去の水準に基づき、設定した。）	89.8%▶ 91.0%	支援により生活困窮から変化が見られた件数／生活困窮相談支援プラン作成件数（評価実施件数）×100	62
岸和田市居住支援協議会による居住支援件数	住宅困窮者に対する支援状況を測定する指標（過去の平均値に基づき、設定した。）	97件▶100件	住宅政策課資料	62

基本目標 安全で安心して暮らせるまち

指 標	説 明（目標値の設定理由）	みんな めざそう値 （目標値）	出典・計算式	ページ
交通事故(人身事故+物損事故)の年間発生件数	市内の交通安全の状況を測定する指標(交通安全をめざし、減少とした。)	5,173件▶ 減少	大阪府岸和田警察署 (1月～12月)	66
空家等に対する指導等により改善した件数(累計)	空き家などへの対応状況を測定する指標(年間60件の改善件数をめざし、設定した。)	328件▶ 570件	住宅政策課資料	66
建築確認申請の完了検査受検率	良好な住環境づくりが行われているかを測定する指標(すべての建築確認申請についての完了検査の受検をめざし、設定した。)	92.4%▶ 100%	完了検査実施件数/ 建築確認申請件数× 100	66
市内における刑法犯罪の認知件数(全体)	地域の犯罪発生状況を測定する指標(地域社会の犯罪抑止機能の向上を図り、減少とした。)	1,299件▶ 減少	大阪府岸和田警察署 (1月～12月)	68
市内における刑法犯罪の認知件数(うち窃盗)	地域の犯罪発生状況を測定する指標(地域社会の犯罪抑止機能の向上を図り、減少とした。)	943件▶ 減少	大阪府岸和田警察署 (1月～12月)	68
市内における刑法犯罪の認知件数(うち詐欺)	地域の犯罪発生状況を測定する指標(地域社会の犯罪抑止機能の向上を図り、減少とした。)	64件▶減少	大阪府岸和田警察署 (1月～12月)	68
消費者トラブル相談の終結割合	消費に対する相談体制の状況を測定する指標(過去5年間で最も数値の高かった2021年の数値と同水準をめざし、設定した。)	99.1%▶ 99.1%	消費生活センター資料 [(相談件数-(あせん 不調件数+処理不能件 数+処理不要件数))/ 相談件数]×100	68
この1年間に何らかの消費者トラブルにあった市民の割合	市内の消費者トラブルの発生状況を測定する指標(消費者トラブルの減少をめざし、設定した。)	4.1%▶3.0%	市民意識調査で測定	68
市有建築物の耐震化率	地震に対するまちの強さを測定する指標(岸和田市住宅・建築物耐震化促進計画第2期に基づき、設定した。)	92.1%▶ 95.0%	耐震化済棟数/学校 教育施設を除く市有 建築物棟数×100	70
無料耐震診断及び既存建築物耐震診断補助制度による耐震診断実施戸数(累計)	耐震化への対応状況を測定する指標(年間50戸の耐震診断の実施を見込み、設定した。)	914戸▶ 1,110戸	住宅政策課資料	70
災害の際の非常持ち出し品や食糧などを準備している市民の割合	市民の防災意識を測定する指標(市民の防災意識の向上をめざし、設定した。)	40.4%▶ 43.0%	市民意識調査で測定	70
防災福祉コミュニティの数	地域の防災意識を測定する指標(自主防災組織率の向上をめざし、設定した。)	71組織▶ 83組織	年度末での累計数	70
人口1万人当たりの火災発生件数	市内の火災発生状況を測定する指標(近年火災が減少傾向にあり、現状値よりもさらなる減少をめざし、設定した。)	2.2件▶2.0件	年間火災発生件数/ 人口×10000	72

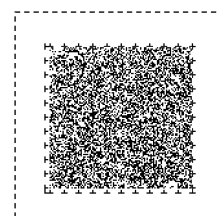


基本目標 人と自然が共生した住みよいまち

指 標	説 明（目標値の設定理由）	みんなでめざそう値（目標値）	出典・計算式	ページ
大気汚染に関する有害大気汚染物質、水質汚濁等に関する有害物質及びダイオキシン類に係る環境基準達成割合	生活環境の汚染に対する基準達成状況を測定する指標（環境基準は達成を目標として設定されていることから、設定した。）	92.1%▶ 100%	達成項目数／常時監視設定項目数×100	76
有収率	水道施設の効率性を測定する指標（岸和田市水道事業ビジョンに基づき、設定した。）	95.2%▶ 95.0%以上を維持	有収水量／総配水量×100	76
基幹管路等の耐震適合率	管路更新による耐震化の取組状況を測定する指標（岸和田市水道事業ビジョンの管路更新による耐震化の方針に沿った整備計画に基づき、設定した。）	30.1%▶ 34.8%	基幹管路等のうち耐震適合延長／基幹管路等の延長×100	76
生活排水適正処理割合	生活排水の処理状況を測定する指標（岸和田市生活排水処理基本計画に基づき、設定した。）	91.0%▶ 93.0%	（公共下水道処理人口＋特定環境保全公共下水道処理人口＋農業集落排水処理人口＋合併処理浄化槽人口）／計画処理区域内人口	78
この1年間にゴミ拾いや美化活動を行ったことがある市民の割合	市民の美化活動への関心度を測定する指標（まちの美化活動へ参加している人が増えている状態をめざし、設定した。）	29.7%▶ 33.0%	市民意識調査で測定	78
施設緑地面積	身近な緑地である施設緑地面積を測定する指標（適切に緑地の保全を進めることをめざし、設定した。）	352.26ha▶ 360.07ha	年度末の施設緑地の面積	80
市民1人当たりの都市公園面積	公園の整備状況を測定する指標（岸和田市都市公園条例における標準値をめざし、設定した。）	9.1㎡▶ 10.0㎡	公園緑地関係資料集（大阪府発行）	80
自然資料館の内外で行われているイベント等への参加者数	市民の自然環境に対する関心度を測定する指標（現状における最大受入数をめざし、設定した。）	2,674人▶ 4,500人	自然資料館資料	80
リサイクル率	分別リサイクルの取組状況を測定する指標（岸和田市一般廃棄物処理基本計画（ゴミ編）に基づき、設定した。）	12.0%▶ 14.8%	資源化されたごみの量／ごみの総排出量×100	82
市民1人1日当たりの一般家庭系ごみの排出量	一般家庭からのごみの排出状況を測定する指標（近年減少傾向にあり、さらなる減少をめざし、設定した。）	409.3g▶ 減少	一般家庭普通ごみ年間排出量／人口／365	82
事業系ごみの年間排出量	事業系のごみの排出量を測定する指標（近年減少傾向にあり、さらなる減少をめざし、設定した。）	29,699t▶ 減少	事業系ごみの年間総排出量（4月～3月）	82
ごみの減量化やリサイクルに取り組んでいる市民の割合	ごみの減量化・資源化に対する市民の意識を測定する指標（ごみの減量化・資源化に適切に取り組んでいる人が増えている状態をめざし、設定した。）	75.4%▶ 78.0%	市民意識調査で測定	82
省エネルギーや再生可能エネルギーを活用している市民の割合	地球環境に対する市民の意識を測定する指標（地球環境に負荷の少ないエネルギーを活用している人が増えている状態をめざし、設定した。）	21.8%▶ 25.0%	市民意識調査で測定	82
市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量	地球環境への負荷になる温室効果ガスの排出状況を測定する指標（岸和田市地球温暖化対策実行計画に基づき、2030年までに2013年の温室効果ガス排出量（1,082,180t-CO ₂ ）の30%削減をめざし、設定した。）	4.2t-CO ₂ ▶ 3.9t-CO ₂	市内温室効果ガス排出量／人口	82

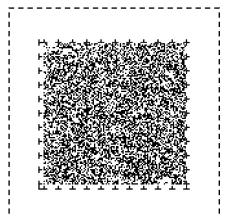
基本目標 にぎわいと活力を創造するまち

指 標	説 明（目標値の設定理由）	みんなでめざそう値（目標値）	出典・計算式	ページ
市内民営事業所数	事業活動の活況さを測定する指標（事業活動が活発に行われている状態をめざし、増加とした。）	7,230事業所 ▶増加	経済センサス活動調査	86
付加価値額	事業活動によってもたらされた新たな付加価値の状況を測定する指標（事業活動が活発に行われている状態をめざし、増加とした。）	244,824百万円▶ 増加	経済センサス活動調査	86
Kishi-Bizの支援による新規創業件数	新たな事業活動の活性化状況を測定する指標（新たな事業活動が活発に生み出されている状態をめざし、設定した。）	11件▶18件	Kishi-Bizの実績で測定	86
Kishi-Bizによる支援を受けた創業希望者数	支援による創業の促進状況を測定する指標（新たな事業活動がしやすい環境をめざし、増加とした。）	56人▶増加	Kishi-Bizの実績で測定	86
農産物・海産物の直売所の来場者数	地産地消の推進状況を測る指標（近年減少傾向にあるが、過去の水準に基づき、設定した。）	560,718人▶ 600,000人	1年間に愛彩ランドの直売所を訪れた来場者数	88
地元産の食品を優先的に買う市民の割合	市内の農水産物の魅力及び市民の買物行動を測定する指標（地産地消が進んでいる状態をめざし、設定した。）	37.9%▶ 41.0%	市民意識調査で測定	88
1年間の主要観光施設及びイベント等への入込客数	観光振興の状況を測定する指標（各施設、イベント等における過去の高水準値等を勘案し、設定した。）	1,651,317人▶ 2,570,000人	主要観光施設入場者数とイベント等への来場者	90
市外の人の好感度	市外の人の岸和田に対する印象を測定する指標（徐々に好感度を上げていくことをめざし、設定した。）	23.6%▶ 30.0%	広報広聴課資料（アンケート）	92
市のSNSによる情報発信数	市のSNSの活用状況を測定する指標（引き続き、1日に1件程度の情報発信をめざし、設定した。）	375件▶ 400件	広報広聴課資料	92
拠点のにぎわいがあると感じている市民の割合	拠点のにぎわいに対する市民の感じ方を測定する指標（目標値は後年度に設定）	後年度に設定	市民意識調査で測定	94
市内をスムーズに移動できると感じている市民の割合	市民の市内移動の状況を測定する指標（市内をよりスムーズに移動できる状態をめざし、設定した。）	36.1%▶ 39.0%	市民意識調査で測定	94
景観がよく保全されていると感じている市民の割合	岸和田の景観に対する市民の感じ方を測定する指標（良好なまちなみが保全されている状態をめざし、設定した。）	18.5%▶ 21.0%	市民意識調査で測定	96



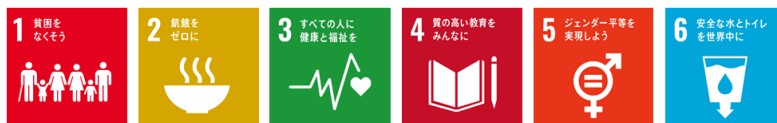
基本目標 みんなでつくる持続可能なまち

指 標	説 明（目標値の設定理由）	みんなでめざそう値（目標値）	出典・計算式	ページ
この1年間にボランティア活動や地域の自治活動に参加したことがある市民の割合	市民の地域活動への参加状況を測定する指標（地域活動に参加している人が増えている状態をめざし、設定した。）	19.7%▶ 22.0%	市民意識調査で測定	100
市内のNPO法人数	協働の担い手となるNPO法人の状況を測定する指標（過去5年間の平均の増減数に基づき、設定した。）	67法人▶ 75法人	年度末の市内NPO法人数（市内にのみ事務所を有する法人）	100
市民活動サポートセンター利用者数	市民活動サポートセンターの活用状況を測定する指標（過去2年間の平均値に基づき、設定した。）	1,814人▶ 1,840人	市民活動サポートセンターの利用者数	100
包括連携協定数（累計）	公民連携の促進状況を測定する指標（年間1件の締結をめざし、設定した。）	8件▶12件	包括連携協定数	100
派遣研修及び能力開発研修への延べ参加者数	職員の能力開発への取組状況を測定する指標（近年減少傾向にあるが、減少前と同水準をめざし、設定した。）	266人▶ 330人	人事課資料	102
ペーパーレス会議の開催件数	庁内の電子化の状況を測定する指標（全庁的に行われている会議についてペーパーレス化を進めることをめざし、設定した。）	0件▶48件	IT推進課資料	102
AIやRPAの導入事務事業数	庁内のICT技術の活用状況を測定する指標（定型的な作業・業務が多い部署への導入をめざし、設定した。）	8事業▶ 24事業	IT推進課資料	102
オンライン申請が可能な事務手続き数	行政手続きのICT化の状況を測定する指標（デジタル・ガバメント実行計画に基づき、子育て・介護分野における手続きについてオンライン化することをめざし、設定した。）	0手続き▶ 24手続き	基幹系業務におけるオンライン申請可能事務数	104
経常収支比率	持続可能な財政運営が行われているかを測定する指標（財政計画に基づき、設定した。）	92.4%▶ 95.7%	経常経費充当一般財源の額／経常一般財源×100	104
岸和田競輪売上高	財源確保の状況を測定する指標（近年売上高が減少傾向にあり、現状値と同水準をめざし、設定した。）	248億円▶ 248億円	公営競技事業所資料	106
ふるさと寄附受入額	財源確保の状況を測定する指標（2021年度の実績に基づき、繰り上げた金額をめざし、設定した。）	9.6億円▶ 10億円	企画課資料	106



2.SDGsとの関連性

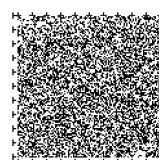
下表は「個別目標の方向性」ごとにSDGs目標との関連性を整理したものです。



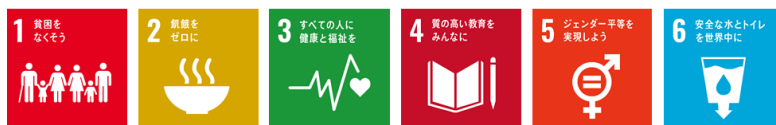
基本目標	個別目標	個別目標の方向性	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
岸和田の次世代を育むまち	安心して子どもを生き、育てられている	① 妊産婦や乳幼児の切れ目のない健康づくりを進める ② 妊娠を望む家庭や子育てで家庭の不安解消、経済的負担の軽減を進める	■		■	■		
	働きながら子育てができています	① 保育を必要とする人が、安心して子どもを預けられる環境づくりを進める					■	
	子どもの健康と安全が保たれている	① 健診などによる疾病の早期発見・予防など子どもの健康づくりを進める ② 食育や体力づくりなど子どもの健康な身体づくりを進める ③ 登下校をはじめ、子どもが安全に学校や地域で過ごせる環境づくりを進める ④ 障害のある子どもの発達支援とともに、家庭生活での負担軽減を進める ⑤ 育てにくさを感じる親への支援や、児童虐待に関する相談の充実、早期発見・早期対応を進める		■	■	■		■
	子どもの個性や能力が豊かに育まれている	① 適正な就学・就園や経済的な支援により教育の機会を確保する ② 子ども一人ひとりが輝くための適切な教育支援を行う ③ 学校園の適切な維持管理や魅力ある運営を行う ④ 地域と連携し、子どもの社会的な心を育む ⑤ 地域の産業を担う人材育成を進める	■			■	■	■
	生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている	① 様々な学びの活動や知識、経験の活用を進めるとともに、コミュニティのつながりを創出する ② スポーツへの親しみや参画の向上を図るとともに、スポーツができる環境づくりを進める ③ 芸術や文化への親しみや参画の機会を通して、心の豊かさの醸成を図る			■	■	■	
	誰もが社会参加し、活躍できる場がつけられている	① 働きたい人の就労機会の確保を進める ② 市内事業所の労働環境の向上を進める ③ 障害者の就労支援の充実と生きがいづくりを進める ④ 高齢者の雇用促進と生きがいづくりを進める						
	郷土の歴史や文化が引き継がれている	① 郷土の歴史や文化に触れる機会をつくる ② 岸和田の歴史や文化の保存・活用を進める				■	■	
	健康意識の向上とともに、介護予防が進められ、心身の健康が維持・増進している	① 健康意識の向上や重症化予防など疾病予防を進める			■			
	医療サービスを受ける環境が整うとともに、緊急時にも医療が受けられる状態になっている	① 医療体制の充実により、必要なときに必要な医療が受けられる環境づくりを進める			■			
	平和で、多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、自分らしく生活できる環境が整っている	① 個々の人権や多様な価値観の尊重意識を広げるとともに、多文化に触れる機会を創出し、他者理解を促進する ② 男女共同参画の取組を進める ③ みんなが使いやすいデザインに配慮した施設環境をつくる ④ 平和への意識向上を進める			■	■	■	
健康で自分らしく生きられるまち	地域で支えあい、助けあえる関係が築けている	① 常日頃から、地域の中でお互いに助けあえる地域共生社会の関係づくりを進める			■			
	介護や医療保険、障害者支援の福祉サービスなど、誰もが必要な支援を受け安心できている	① その人らしい自立した生活につながる介護サービスを提供する ② 医療保険制度を適切に運営する ③ 高齢者が自分らしく生活できる環境づくりを進める ④ 障害者が自分らしく生活できる環境づくりを進める ⑤ 生活困窮者などに必要な支援を行う ⑥ 住宅困窮者に居住支援を行う		■	■	■		
			■		■			
			■		■			
			■		■			

[illegible]

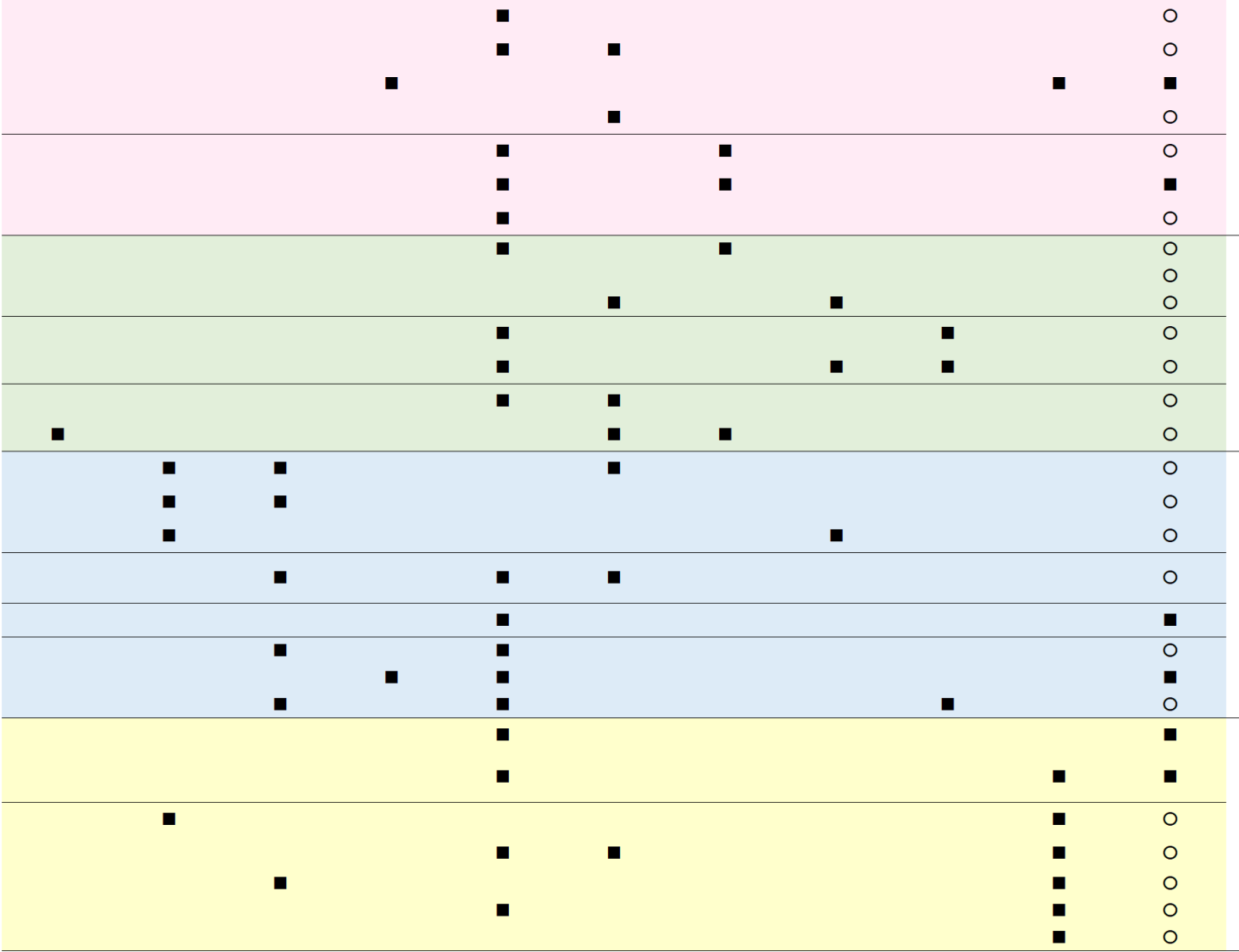
【凡例】 ■印：本編で「特に関連するSDGs目標」として記載しているもの
○印：その他関連するSDGs目標



下表は「個別目標の方向性」ごとにSDGs目標との関連性を整理したものです。



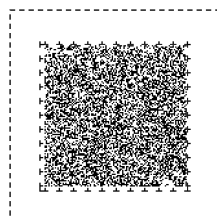
基本目標	個別目標	個別目標の方向性	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
暮らしで安心して暮らせるまち	事故や犯罪などに巻き込まれない生活が送れている	① 交通マナーの向上や交通事故を防ぐ環境づくりを進める ② 空き家対策や建築物の安全性の確保を行うとともに、良好な住環境の創出を進める ③ 防犯意識の向上とともに、犯罪防止につながる環境づくりを進める ④ 安心してサービスや物の購入などの消費行動が行える環境づくりを進める			■			
	災害などの非常時への準備が進められ、強靱な環境になっている	① 災害被害を最小限にする強靱な基盤の整備を計画的に進める ② 発災時にみんなが迅速かつ柔軟に対応できる環境づくりを進める ③ 火災予防や火災被害を最小限にする取組を進める						
人と自然が共生した住みよいまち	良好な生活環境とともに、まちが美しくなっている	① 環境汚染などによる健康被害の発生を防ぐ ② 安全安心な水を安定的に供給する ③ まちの美化を進める			■			■ ■
	人が緑と触れあっている	① まちの緑の適正な保全とまちの緑化を進める ② 貴重な自然環境と生物多様性の保全・活用を進める						
	環境の負荷を減らした循環共生型の地域社会がつくられている	① ごみの減量や資源の有効活用など3R+Rを進める ② 省エネルギー化や再生可能エネルギーによる脱炭素を推進し、地球温暖化防止を進める						
にぎわいと活力を創造するまち	活発な経済活動が行われている	① 地域の事業者や個人事業主が活躍し、事業継続ができる環境づくりを進める ② 新たに市内で活動する事業者や個人事業主が、活動しやすい環境づくりを進める ③ 農業や水産業など、地域で安全な食が生産され、消費される環境づくりを進める		■				
	観光資源が活かされている	① 関西国際空港とのアクセス性を活かすとともに、観光資源が充実し、観光客が過ごしやすい環境づくりを進める						
	岸和田の魅力が伝わっている	① 岸和田の魅力を活用し、まちのイメージの向上を進める						
持続可能なまち	にぎわいや活力を支える基盤が整っている	① 地域の活性化を導く拠点の形成を進める ② 拠点とのアクセス性の向上を図る ③ 適正な土地利用と景観形成を進める						
	みんなが主役の協働・連携したまちづくりが行われている	① 地域の担い手が育ち、まちづくり活動が活発に行われている環境づくりを進める ② 当事者意識の醸成とともに、様々な主体が力を発揮し、協働・連携できる環境づくりを進める						
	持続可能で信頼される行政になっている	① 業務の効率的かつ効果的な推進に資する職員の育成を進める ② 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める ③ 行政手続きが便利になる環境づくりを進める ④ 安定的な歳入確保と適切な歳出管理を進める ⑤ 市独自の歳入確保を進める						



将来ビジョン・岸和田 第1期基本計画

2023（令和5）年3月

大阪府岸和田市／総合政策部企画課



Uni-Voice

